

2024 年度（令和 6 年度）

愛 知 県

「若者・外国人未来応援事業」

成 果 報 告 書

2025（令和 7）年 3 月

愛知県教育委員会あいちの学び推進課



# 目 次

1	本県における事業の必要性と事業の趣旨・目的	1
2	事業の全体概要	2
3	2024（令和6）年度「若者・外国人未来塾」の実施状況	
	【学習支援】	
■	名古屋地域	16
■	豊橋地域	19
■	豊田地域	22
■	半田地域	25
■	春日井地域	29
■	一宮地域	33
■	蒲郡地域	36
■	愛西地域	40
■	知立地域	44
	【日本語学習支援】	
■	名古屋地域	47
■	豊橋地域	49
■	豊田地域	52
■	春日井地域	55
■	蒲郡地域	57
■	知立地域	61
<b>&lt;項目&gt;</b>		
●	参加者の状況	● 参加者の感想・メッセージ
●	支援スタッフ	● 参加者への周知・広報
●	日本語学習支援の内容について	● 成果と課題（支援スタッフ・運営者）
●	運営者の声	
○	参加者ピックアップコラム	
4	2024（令和6）年度「若者未来応援協議会」の実施状況	
(1)	合同協議会について	64
(2)	地域協議会について	64
5	学習支援に参加された皆さんの声	69
6	事業の成果と課題	
(1)	成果	71
(2)	課題	72

## 1 本県における事業の必要性と事業の趣旨・目的

近年、所得格差は拡大し「子供の貧困」が社会的に注目されている。厚生労働省の2022（令和4）年国民生活基礎調査によると、2021（令和3）年の貧困線<sup>1</sup>は127万円となっており、貧困線を下回る所得の世帯が相対的貧困にあたる。将来的な進学や就職などへの影響も深刻とされる、17歳未満の「子どもの貧困率<sup>2</sup>」は11.5%（OECD平均：12.8%）で、前回調査（2019（令和元）年）時の14.0%（2018年数値）から2.5%減少しているものの、依然としておよそ8人に1人が該当し、貧困家庭に生活する結果となっている。また、子供がいる現役世帯<sup>3</sup>のうち、「大人が一人<sup>4</sup>」の世帯員でみると44.5%（2019年調査から3.8%減、OECD平均：31.8%）にのぼり、半数近くが困窮にあえぐ状況が続いている。特に、社会的困難を抱えた子供にとって学校を離れた後の継続的な支援がないことが課題とされている。

本県においても、義務教育段階の支援については、放課後子ども教室<sup>5</sup>や地域未来塾<sup>6</sup>及び不登校の支援をアウトリーチにより実施している家庭教育コーディネーター設置事業など（いずれもあいちの学び推進課が担当課）があるが、義務教育終了後の社会的困難を抱える若者に対する支援体制は十分ではない。

また、本県には外国人居住者が多く、日本語指導が必要な外国籍の児童生徒数は11,924人と全国最多であり、2番目に多い神奈川県（6,182人）の約2倍と突出している。

本県の困難を抱える若者の状況については以下のとおりである。

### 【県の状況】

・中学校不登校生徒数：14,676人	<b>全国ワースト4位（2023年度）</b>
・中学校卒業後進路未定者数：807人	<b>全国ワースト2位（2023年度）</b>
・高等学校等中退者数：2,705人	<b>全国ワースト4位（2023年度）</b>
・日本語指導が必要な外国籍の児童生徒数：11,924人	<b>全国1位（2023年度）</b>

<sup>1</sup> 等価可処分所得（世帯の可処分所得（収入から税金・社会保険料等を除いたいわゆる手取り収入）を世帯人員の平方根で割って調整した所得）の中央値の半分の額。2018（平成30）年の調査から「新基準（2015（平成27）年に改定されたOECDの所得定義の新たな基準）」となっている。

<sup>2</sup> 子ども（17歳以下の者）全体に占める、等価可処分所得が貧困線に満たない子どもの割合。貧困率は、その人の所得ではなく、その人が属する世帯の所得をもとに計算。

<sup>3</sup> 世帯主が18歳以上65歳未満の世帯のこと。

<sup>4</sup> 「子どもがいる現役世帯」に含まれる「大人」には親以外の世帯員も含まれるため、「祖父（母）と子ども」「18歳以上の兄弟と子ども」といった場合等も考えられ、「ひとり親世帯」とは限らない。

<sup>5</sup> すべての子どもを対象に、地域の方々の参画を得て、放課後や土曜日等に学習や様々な体験・交流活動、スポーツ・文化活動等の機会を提供する取組

<sup>6</sup> 様々な事情により、学習習慣が十分に身につけていない中学生への学習支援を、大学生や教員OB、NPOなど地域住民の協力により学習支援を実施する事業



## (1) 「若者・外国人未来塾」・「若者未来応援協議会」

愛知県では、事業名を「若者・外国人未来応援事業」とし、県教育委員会あいちの学び推進課が主体となり、七つの委託団体及び関係機関・団体等と協働して、事業を実施する。

本事業は、「若者・外国人未来塾」と「若者未来応援協議会」の二つを柱とする。

### ア 若者・外国人未来塾

「若者・外国人未来塾」とは、県内9地域（名古屋、豊橋、豊田、半田、春日井、一宮、蒲郡、愛西、知立）において、無料の学習支援及び相談・助言事業を行う支援の場である。中学卒業後の進路未定者、高校中退者、ひきこもり状態の人及び外国人等、社会的困難を抱える若者を対象として、主に高卒認定試験合格に向けた支援を行う。また、名古屋、豊橋、豊田、春日井、蒲郡、知立の6会場においては、日本語習得の不十分な外国人のため、学習言語としての日本語学習支援も行う。

また、学習面で問題を抱える若者は、他の様々な社会的困難も同時に抱えていることがあるため、対象者の要望に応じ、本事業で連携する福祉、保健、労働、多文化共生等の関係機関・団体の適切な窓口を紹介し、支援が受けられるように誘導する。

## 【2024（令和6）年度「若者・外国人未来塾」の実施概要】

### ●高卒認定試験合格等に向けた学習支援、相談・助言

地域	委託団体	会場	実施日	開始日
名古屋	NPO法人 あいち・子ども NPOセンター	愛知県図書館	水曜日 17:30～19:30 土曜日 15:00～17:00	4月6日
豊橋	NPO法人いまから	豊橋市青少年センター	火曜日 18:00～20:00 金曜日 18:00～20:00	4月2日
豊田	公益財団法人 豊田市文化振興財団	豊田市青少年センター	水・金曜日 18:00～21:00 第1・第3土曜日 13:30～16:30	4月3日
半田	NPO法人ICDS	ちた地域若者 サポートステーション	水曜日 15:00～17:00 土曜日 13:00～17:00	4月4日
春日井	労働者協同組合 ワーカーズコープ・センター 事業団	春日井若者 サポートステーション	月曜日 17:00～20:00 木曜日 18:00～20:00	4月15日
一宮	NPO法人 あいち・子ども NPOセンター	一宮市立中央図書館	火曜日 17:30～19:30 土曜日 16:00～18:00	4月6日
蒲郡	NPO法人 青少年自立援助センター 北斗寮	がまごおり若者 サポートステーション	水曜日 13:00～17:00 木曜日 13:00～17:00 土曜日 13:00～17:00 【とよかわサテライト】 木曜日 13:00～17:00 金曜日 15:00～17:00	4月3日

愛西	労働者協同組合 ワーカーズコープ・センター 事業団	愛西市文化会館	火曜日 18:00～20:00 金曜日 18:00～20:00	4月16日
知立	NPO法人ぷらっとほーむ	刈谷市中央図書館	水曜日 16:00～18:00 金曜日 16:00～18:00	4月3日

### ●日本語学習支援

(対象：日本語支援が必要な外国人等。内容：読み書きを中心に個別指導を基本とする。)

地域	委託団体	会場	実施日	開始日
名古屋	NPO法人 あいち・子ども NPOセンター	愛知県図書館	土曜日 15:00～17:00	4月6日
豊橋	NPO法人いまから	豊橋市青少年センター	木曜日 18:00～20:00	4月4日
豊田	公益財団法人 豊田市文化振興財団	豊田市青少年センター	水・金曜日 18:00～21:00のうち1 時間	4月3日
春日井	労働者協同組合 ワーカーズコープ・センター 事業団	春日井若者 サポートステーション	月曜日 17:00～20:00	4月15日
蒲郡	NPO法人 青少年自立援助センター 北斗寮	がまごおり若者 サポートステーション	土曜日 13:00～17:00 のうち2時間 【とよかわサテライト】 土曜日 13:00～17:00 のうち2時間	4月3日
知立	NPO法人ぷらっとほーむ	ぷらっとほーむ事務所	水曜日 13:30～15:30 金曜日 13:30～15:30	4月3日

### イ 若者未来応援協議会

学識経験者の助言のもと、就労支援機関をはじめ、福祉、保健、労働、その他関係機関・団体等と、効果的な連携・協働の在り方等について協議するため、県教育委員会あいちの学び推進課が設置。対象者が必要とする支援先を相互に案内できるネットワークの構築を目指す。

- ・関係機関等に対する事業周知、及び、相互の連携・協力体制の構築を図るため、県レベルの委員で構成される**合同協議会**を設置。(年2回開催)
- ・各地域の実情に応じた支援ができるよう、各地域における関係機関・団体等の委員からなる**地域協議会**を設置。(各地域で年2回開催)
- ・合同協議会は、研究部会の機能を加え、全ての実施地域の事業の在り方、事業の普及・啓発方策及び事業の評価等について総合的に協議することとする。
- ・各地域で実際に利用者に対して学習支援を行っている様子を見学・情報交換等を行う機会として、委託団体が**他地域学習支援の視察**を行う機会や、合同協議会・会長と委託団体、本課が参加する事業内容の充実を目指す**情報交換会**をオンラインで実施した。

【2024（令和6）年度 若者未来応援協議会 合同協議会委員名簿】

● 合同協議会		
大村 恵	学識者	愛知教育大学・特別教授
川北 稔	学識者	愛知教育大学・准教授
野尻 紀恵	学識者	日本福祉大学・教授
竹内 洋江	委託先	NPO法人あいち・子どもNPOセンター・常任理事
山下 智史	委託先	NPO法人いまから・学習支援員代表
荘田 元宣	委託先	公益財団法人豊田市文化振興財団／豊田市青少年センター・所長
井戸 千尋	委託先	NPO法人ICDS／ちた地域若者サポートステーション・センター長
小楠 修平	委託先	労働者協同組合 ワーカーズコープ・センター事業団 東海事業本部 名古屋事業所長
鈴木 法政	委託先	NPO法人青少年自立援助センター北斗寮・理事長
高須 了	委託先	NPO法人ぷらっとほーむ・理事
早川 保	国・就労	愛知労働局職業安定部職業安定課職業紹介係・業務補佐
細川 宏貴	県・青少年	愛知県県民文化局県民生活部社会活動推進課・課長補佐（第1回）
川原 素子	県・青少年	愛知県県民文化局県民生活部社会活動推進課・課長補佐（第2回）
都築 芳郎	県・多文化	愛知県県民文化局県民生活部社会活動推進課多文化共生推進室 （多文化共生推進G）・室長補佐
中村 克成	県・多文化	愛知県県民文化局県民生活部社会活動推進課多文化共生推進室 （日本語教育推進G）・室長補佐
増田 章江	県・福祉	愛知県福祉局福祉部地域福祉課・課長補佐
三原 亜矢巳	県・保健	愛知県保健医療局健康医務部医務課こころの健康推進室・室長補佐
鈴木 健悟	県・就労	愛知県労働局就業促進課・主査
森本 芳裕	県・教育	愛知県教育委員会高等学校教育課・課長補佐
小野内 茂喜	県・生涯	愛知県教育委員会あいちの学び推進課・課長

(2) 8か年の事業実績

1 学習支援参加者

地域	実人数(下段：外国人内数)								延べ人数(下段：実施回数)								
	2024	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017	2024	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017	
名古屋	30	42	39	36	23	24	20	25	286	491	339	259	219	222	180	61	
	0	2	3	0	0	0	1	8	83	88	83	86	66	68	69	30	
豊橋	19	26	20	29	32	23	18	11	223	531	358	376	426	401	191	190	
	9	14	13	21	24	13	7	0	123	124	84	87	58	69	67	59	
豊田	27	28	29	34	35	30	14	9	342	340	245	420	528	371	102	154	
	14	13	18	20	23	20	5	1	115	116	115	113	100	65	61	59	
半田	31	23	17	10	5	3			350	291	122	151	66	47			
	1	1	0	3	0	0			81	76	84	91	67	55			
春日井	14	12	19	13	11	5			185	257	197	260	215	135			
	0	1	3	0	0	0			79	75	80	74	70	68			
一宮	13	18	7	4	4				223	268	86	23	24				
	3	8	4	0	2				77	84	82	74	60				
蒲郡	28	32	30	37	12				444	661	653	397	159				
	2	0	0	11	3				171	200	183	171	102				
愛西	5	11	9	4					114	118	127	76					
	0	6	3	0					77	71	79	63					
知立	25	14	19						248	227	223						
	12	0	4						91	88	81						
合計	192	206	189	167	122	85	52	45	2,415	3,184	2,350	1,962	1,637	1,176	473	405	
	41	45	48	55	52	33	13	9	897	922	871	759	523	325	197	148	
									1回平均	2.69	3.45	2.7	2.58	3.13	3.62	2.4	2.74

2 日本語学習支援参加者

地域	実人数								延べ人数(右側：実施回数)								
	2024	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017	2024	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017	
名古屋	2	2	4	0	4	20	5	12	12	3	10	0	20	118	26	49	
									40	43	40	44	20	33	33	30	
豊橋	12	8	11	18	19				154	108	28	89	161				
									93	124	45	47	31				
豊田	7	10	18	20	24				140	171	160	268	300				
									114	116	115	113	96				
春日井	1	1							1	14							
									34	37							
蒲郡	18	21	22						293	255	387						
									134	152	157						
知立	16	19							177	324							
									91	88							
合計	56	61	55	38	47	20	5	12	777	875	585	357	481	118	26	49	
									506	560	357	204	147	33	33	30	
									1回平均	1.54	1.56	1.64	1.75	3.27	3.58	0.79	1.63



### 3 参加者の状況について

#### ア 年齢

##### 【学習支援】

地域	内訳	～12才	～15才	～19才	～24才	～29才	30才～	不明 未回答	計
名古屋	参加者			13	6		11		30
	うち外国ルーツ								
豊橋	参加者	2	7	6	1	2	1		19
	うち外国ルーツ	2	5	2					9
豊田	参加者		9	16	1	1			27
	うち外国ルーツ		5	9					14
半田	参加者		3	12	8	2	6		31
	うち外国ルーツ		1						1
春日井	参加者		3	7	4				14
	うち外国ルーツ								
一宮	参加者		2	9	1		1		13
	うち外国ルーツ		1	2					3
蒲郡	参加者		13	11	2		2		28
	うち外国ルーツ		1	1					2
愛西	参加者		1	3			1		5
	うち外国ルーツ								
知立	参加者		4	18	2	1			25
	うち外国ルーツ		2	10					12
合計	参加者	2	42	95	25	6	22		192
	うち外国ルーツ	2	15	24					41

##### 【日本語学習支援】

地域名	～12才	～15才	～19才	～24才	～29才	30才～	不明 未回答	計
名古屋		1	1					2
豊橋	1	2	2	2	1	4		12
豊田	1	6						7
春日井			1					1
蒲郡	1	5	6	2	2	2		18
知立	1	5	8		1		1	16
合計	4	19	18	4	4	6	1	56

# イ 居住地

## 【学習支援】

名古屋	内訳	千種区	東区	北区	西区	中村区	中区	昭和区	瑞穂区		
	参加者	4	2	2	3			3			
	うち外国ルーツ										
	内訳	熱田区	中川区	港区	南区	守山区	緑区	名東区	天白区		
	参加者		2		1	1	2	1	5		
	うち外国ルーツ										
	内訳	清須市	北名古屋市	長久手市	豊山町	日進市	東郷町	豊明市			
豊橋	参加者										
	うち外国ルーツ										
	内訳	尾張旭市	稲沢市	不明							計
豊田	参加者	2	1	1							30
	うち外国ルーツ										0
半田	内訳	豊橋市	新城市	設楽町	東栄町	豊根村	田原市	豊川市			計
	参加者	17					1	1			19
	うち外国ルーツ	9									9
春日井	内訳	みよし市	豊田市	安城市							計
	参加者	1	25	1							27
	うち外国ルーツ	1	13								14
一宮	内訳	半田市	常滑市	東海市	知多市	阿久比町	東浦町	南知多町	美浜町		
	参加者	8	3	1	3	2	2	1	1		
	うち外国ルーツ										
	内訳	武豊町	大府市	豊明市	碧南市	不明					計
蒲郡	参加者	5	1	1	1	2					31
	うち外国ルーツ	1									1
愛西	内訳	春日井市	小牧市	尾張旭市	瀬戸市	守山区					計
	参加者	12				2					14
	うち外国ルーツ										0
知立	内訳	一宮市	稲沢市	犬山市	江南市	岩倉市	大口町	扶桑町	春日井市		計
	参加者	8	2		1	1			1		13
	うち外国ルーツ	2	1								3
愛西	内訳	岡崎市	蒲郡市	豊川市	幸田町	南知多町	豊橋市	不明			計
	参加者	1	13	6	5	1	1	1			28
	うち外国ルーツ		1	1							2
知立	内訳	津島市	愛西市	あま市	大治町	蟹江町	飛島村	弥富市			計
	参加者		1			1		1			5
	うち外国ルーツ										0
	内訳	中川区	守山区								
知立	参加者	1	1								計
	うち外国ルーツ										25
	内訳	安城市	刈谷市	西尾市	碧南市	高浜市	知立市				
	参加者	4	5	2	2	4	4				25
知立	うち外国ルーツ	3	1	1	0	4	2				計
	内訳	港区	緑区	豊明市	東浦町						12
	参加者	1	1	1	1						25
知立	うち外国ルーツ			1							12

【日本語学習支援】

名古屋	内訳	千種区	東区	北区	西区	中村区	中区	昭和区	瑞穂区	
	参加者								1	
	内訳	熱田区	中川区	港区	南区	守山区	緑区	名東区	天白区	
	参加者									
	内訳	清須市	北名古屋市	長久手市	豊山町	日進市	東郷町	豊明市		
	参加者									
	内訳	尾張旭市								
参加者	1									
										計
										2
豊橋	内訳	豊橋市	新城市	設楽町	東栄町	豊根村	田原市	豊川市		
	参加者	8						4		
										計
										12
豊田	内訳	みよし市	豊田市							
	参加者		7							
										計
										7
春日井	内訳	春日井市	小牧市	尾張旭市	瀬戸市					
	参加者	1								
										計
										1
蒲郡	内訳	岡崎市	蒲郡市	豊川市	幸田町					
	参加者		5	13						
										計
										18
知立	内訳	安城市	刈谷市	西尾市	碧南市	高浜市	知立市			
	参加者	9	4		1	2				
										計
										16

## ウ 参加年度（新規継続）

### 【学習支援】

地域	新規	継続	2024	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017
名古屋	22	8	22	3	4		1			
豊橋	11	8	11	4	2	2				
豊田	15	12	15	6	4	1		1		
半田	17	14	17	5	4	2	2	1		
春日井	9	5	9	1	1	2		1		
一宮	8	5	8	5						
蒲郡	6	22	6	9	6	4	3			
愛西	3	2	3	1	1					
知立	9	16	9	9	7					

新規	継続
100	92
52.1%	47.9%
192	

## エ 学習履歴

### 【学習支援】

地域	内訳	人数	中卒	高校中退	高校在学	高卒	その他 ※ () 内は外国にルーツをもつ者
名古屋	参加者	30	6	18	3	3	
	内外国ルーツ	0					
豊橋	参加者	19	1	6	5	1	6
	内外国ルーツ	9		2	3		4
豊田	参加者	27	4	3	15	2	3
	内外国ルーツ	14	2	1	9	2	
半田	参加者	31	8	9	6	4	4
	内外国ルーツ	1					1
春日井	参加者	14	3	6	4		1
	内外国ルーツ	0					
一宮	参加者	13	2	3	5		3
	内外国ルーツ	3	1				2
蒲郡	参加者	28	5	6	11		6
	内外国ルーツ	2		1	1		
愛西	参加者	5	1	2	1		1
	内外国ルーツ	0					
知立	参加者	25			20	3	2
	内外国ルーツ	12			12		
	参加者	192	30	53	70	13	26
			30	53			109
内外国ルーツ		41	3	4	25	2	7
			3	4			34

### 【日本語学習支援】

地域	人数	中卒	高校中退	高校在学	高卒	その他
名古屋	2	1		1		
豊橋	12	1			1	10
豊田	7					7
春日井	1			1		
蒲郡	18	5	1			12
知立	16	1				15
	56	8	1	2	1	44
		8	1			47

オ 外国にルーツをもつ者（国籍）

【学習支援】

地域	人数	アルジェリア	アルゼンチン	インド	インドネシア	韓国	ギニア	スリランカ	タイ	台湾	中国	ネパール	パキスタン	フィリピン	ブラジル	ブルキナファソ	ペルー	ベトナム	ボリビア	ミャンマー	モンゴル	ヨルダン	不明
		アフ	中南	アジア	アジア	アジア	アフ	アジア	アジア	アジア	アジア	アジア	アジア	アジア	中南	アフ	中南	アジア	中南	アジア	アジア	中東	
名古屋	0																						
豊橋	9		1												2	6							
豊田	14	1	1								1			3	4	1							3
半田	1																1						
春日井	0																						
一宮	3													3									
蒲郡	2													2									
愛西	0																						
知立	12							1						3	2		2	2	1	1			
合計	41	1	2	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	11	8	0	10	2	1	1	0	0	3

【日本語学習支援】

地域	人数	アルジェリア	アルゼンチン	インド	インドネシア	韓国	ギニア	スリランカ	タイ	台湾	中国	ネパール	パキスタン	フィリピン	ブラジル	ブルキナファソ	ペルー	ベトナム	ボリビア	ミャンマー	モンゴル	ヨルダン	日本	不明
		アフ	中南	アジア	アジア	アジア	アフ	アジア	アジア	アジア	アジア	アジア	アジア	アジア	中南	アフ	中南	アジア	中南	アジア	アジア	中東	アジア	
名古屋	2													2										
豊橋	12											2		1	4		1	4						
豊田	7										1				5						1			
春日井	1											1												
蒲郡	18				1	1			1	1				10	3							1		1
知立	16				2		2							6	3	1					1			1
合計	56	0	0	0	3	1	2	0	1	1	1	3	0	19	15	1	1	4	0	0	2	0	1	1

知立のブラジル 3名のうち、1名はフィリピンにもルーツ

北米	中南米	アジア	中東	ヨーロッパ	オセアニア	アフリカ
北	中南	アジア	中東	欧州	大洋	アフ
0	21	16	0	0	0	1

北米	中南米	アジア	中東	ヨーロッパ	オセアニア	アフリカ
北	中南	アジア	中東	欧州	大洋	アフ
0	16	36	0	0	0	3

#### 4 本事業利用後における状況の変化について（学習支援）

##### ア 高卒認定試験受験・高等学校受験・就職活動及び結果（それぞれの取組人数）

地域名		名古屋	豊橋	豊田	半田	春日井	一宮	蒲郡	愛西	知立	合計
学習相談：学習支援事業利用者数	延べ人数	286	223	342	350	185	223	444	114	248	2,415
	実人数	30	19	27	31	14	13	28	5	25	192
①高等学校卒業程度認定試験を受験		4	2	4	5	7	2	3	3		30
②高等学校（入学：再入学：編入学試験）を受験			1	4	1		1	3		4	14
③就職活動を実施		2	1		1	1	1	4			10
①高等学校卒業程度認定試験に合格 ※科目合格含む。		4	1	4	5	6	1	2	3		26
②高等学校（入学：再入学：編入学試験）に合格			1	2	1		1	3		3	11
③就職活動を実施		2	1		1	1	1	4			10

##### イ 高卒認定試験受験・高等学校受験・就職活動及び結果（取組内訳人数）

地域名		名古屋	豊橋	豊田	半田	春日井	一宮	蒲郡	愛西	知立	合計	
学習相談：学習支援事業利用者数	延べ人数	286	223	342	350	185	223	444	114	248	2,415	
	実人数	30	19	27	31	14	13	28	5	25	192	
①高等学校卒業程度認定試験を受験	②高等学校（入学：再入学：編入学試験）を受験	③就職活動を実施	4	3	8	6	7	4	9	3	4	48
○			2	1	4	4	6	2	2	3		24
	○			1	4	1		1	3		4	14
		○					1	3				4
○	○											
○		○	2	1		1	1	1				6
	○	○										
○	○	○										
学習相談：学習支援事業利用者のうち、高等学校卒業程度認定試験、高等学校を受験した者及び就職活動を実施した者の割合(%)		13.3	15.8	29.6	19.4	50	30.8	32.1	60	16	25	
①高等学校卒業程度認定試験に合格 ※科目合格含む。	②高等学校（入学：再入学：編入学試験）に合格	③就職	4	3	6	6	6	3	8	3	3	42
○			2	1	4	4	5	1	1	3		21
	○			1	2	1		1	3		3	11
		○		1				1	3			5
○	○											
○		○	2		1	1		1				5
	○	○										
○	○	○										
学習相談：学習支援事業利用者のうち、高等学校卒業程度認定試験、高等学校に合格した者及び就職した者の割合(%)		13.3	15.8	22.2	19.4	42.9	23.1	28.6	60	12	21.9	

## ウ 高卒認定試験について

		2024	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017	計	合計
出願者数	名古屋	4	10	10	9	8	8	10	4	63	218
	豊橋	2	3	1	2	8	7	6	2	31	
	豊田	4	4	4	7	6	5	3	2	35	
	半田	5	4	5	4	1	2			21	
	春日井	7	7	12	7	4	2			39	
	一宮	2	3		1	2				8	
	蒲郡	3	2	3	1	1				10	
	愛西	3	2	4	2					11	
	知立										
	合計	30	35	39	33	30	24	19	8		
全科目合格者数	名古屋	3	5	5	5	3	4	3	2	30	96
	豊橋		2			4	3	4	1	14	
	豊田	3	1	2	3	2	2	1	1	15	
	半田	4		3	1		2			10	
	春日井	3	3	5	3	1				15	
	一宮					1				1	
	蒲郡	1		2	1					4	
	愛西	2	2	1	2					7	
	知立										
	合計	16	13	18	15	11	11	8	4		
一部科目合格者数(延べ)	名古屋	3	4	4	4	4	3	4	2	28	110
	豊橋	1	4	2	3	5	3	2	2	22	
	豊田	2	4	1	5	4	1	1	2	20	
	半田	2	3		5	1				11	
	春日井	3	2	3	5	5				18	
	一宮	2								2	
	蒲郡	1	3	1						5	
	愛西	1	1	2						4	
	知立										
	合計	15	21	13	22	19	7	7	6		
一部科目合格者数(実数)	名古屋	1	3	2	2	4	3	4	2	21	78
	豊橋	1	1	1	2	4	3	1	1	14	
	豊田	1	3	1	4	3			1	13	
	半田	1	3		3	1				8	
	春日井	3	2	3	4	2				14	
	一宮	1								1	
	蒲郡	1	2	1						4	
	愛西	1		2						3	
	知立										
	合計	10	14	10	15	14	6	5	4		
好転者	名古屋	4	8	7	7	7	7	7	4	51	174
	豊橋	1	3	1	2	8	6	5	2	28	
	豊田	4	4	3	7	5	2	1	2	28	
	半田	5	3	3	4	1	2			18	
	春日井	6	5	8	7	3				29	
	一宮	1				1				2	
	蒲郡	2	2	3	1					8	
	愛西	3	2	3	2					10	
	知立										
	合計	26	27	28	30	25	17	13	8		

※ 好転者＝全科目合格者＋一部科目合格者（実数）

## エ 高卒認定試験について（各地域別）

### <名古屋>

	2024	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017	計
出願者数	4	10	10	9	8	8	10	4	63
全科目合格	3	5	5	5	3	4	3	2	30
一部合格（延べ）	3	4	4	4	4	3	4	2	28
一部合格（実数）	1	3	2	2	4	3	4	2	21

### <豊橋>

	2024	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017	計
出願者数	2	3	1	2	8	7	6	2	31
全科目合格		2			4	3	4	1	14
一部合格（延べ）	1	4	2	3	5	3	2	2	22
一部合格（実数）	1	1	1	2	4	3	1	1	14

### <豊田>

	2024	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017	計
出願者数	4	4	4	7	6	5	3	2	35
全科目合格	3	1	2	3	2	2	1	1	15
一部合格（延べ）	2	4	1	5	4	1	1	2	20
一部合格（実数）	1	3	1	4	3			1	13

### <半田>

	2024	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017	計
出願者数	5	4	5	4	1	2			21
全科目合格	4		3	1		2			10
一部合格（延べ）	2	3		5	1				11
一部合格（実数）	1	3		3	1				8

### <春日井>

	2024	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017	計
出願者数	7	7	12	7	4	2			39
全科目合格	3	3	5	3	1				15
一部合格（延べ）	3	2	3	5	5				18
一部合格（実数）	3	2	3	4	2				14

### <一宮>

	2024	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017	計
出願者数	2	3		1	2				8
全科目合格					1				1
一部合格（延べ）	2								2
一部合格（実数）	1								1

### <蒲郡>

	2024	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017	計
出願者数	3	2	3	1	1				10
全科目合格	1		2	1					4
一部合格（延べ）	1	3	1						5
一部合格（実数）	1	2	1						4

### <愛西>

	2024	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017	計
出願者数	3	2	4	2					11
全科目合格	2	2	1	2					7
一部合格（延べ）	1	1	2						4
一部合格（実数）	1		2						3

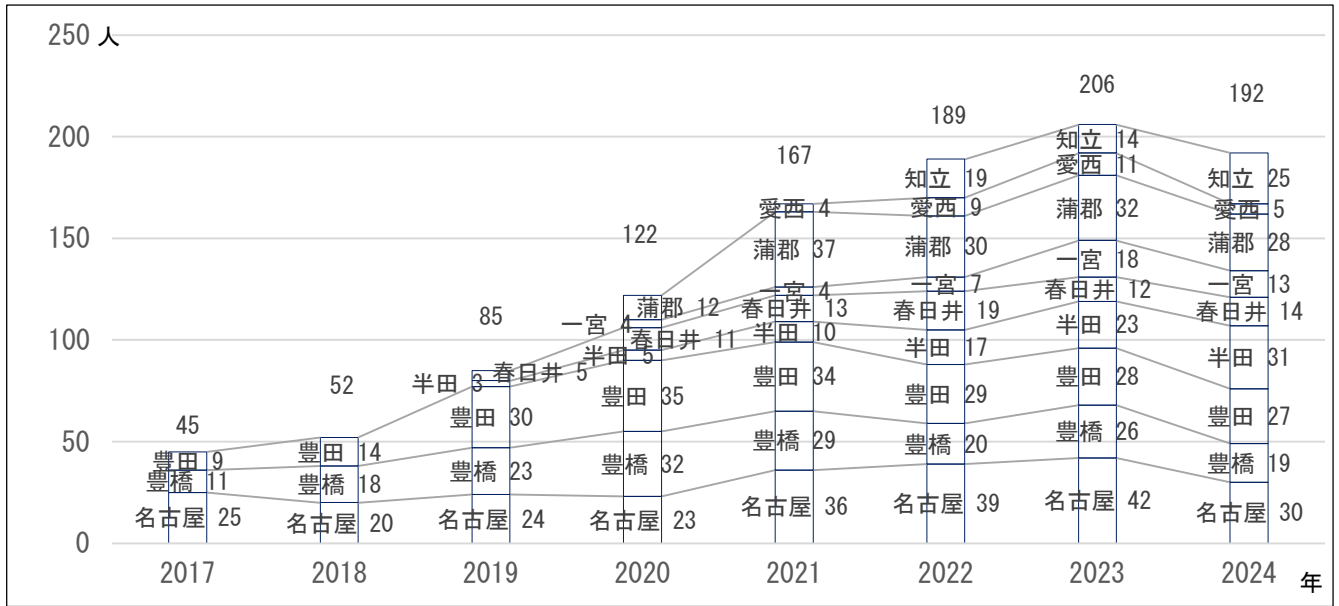
### <知立>

	2024	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017	計
出願者数									
全科目合格									
一部合格（延べ）									
一部合格（実数）									

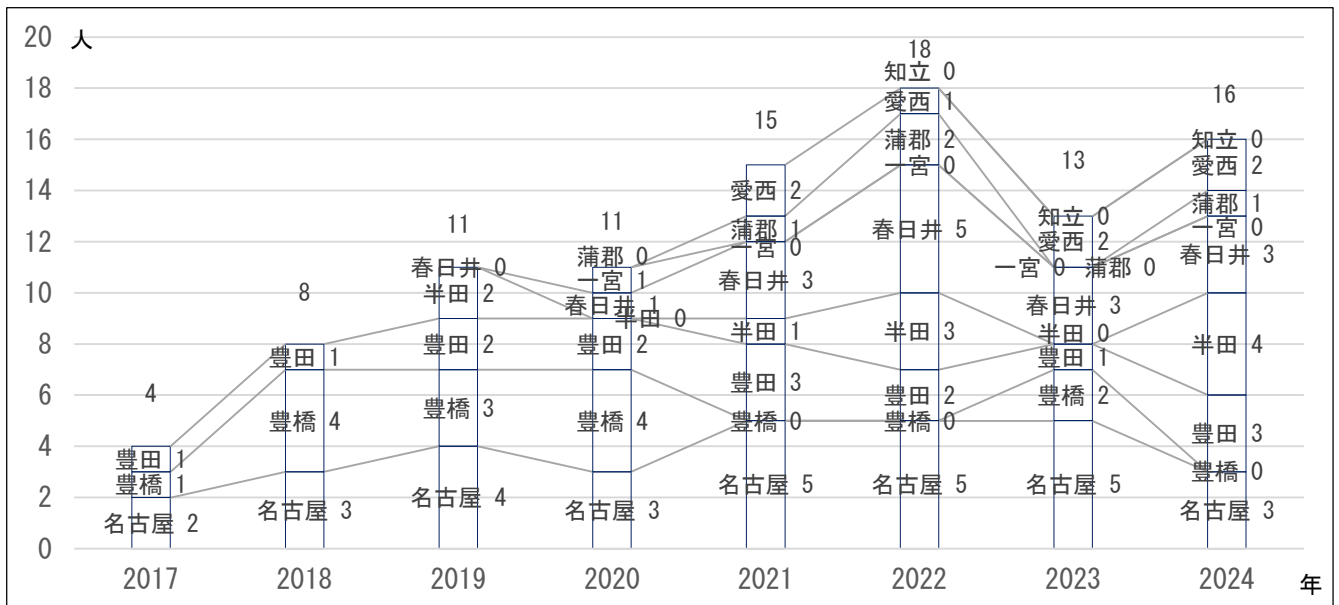


<高卒認定試験：グラフ>

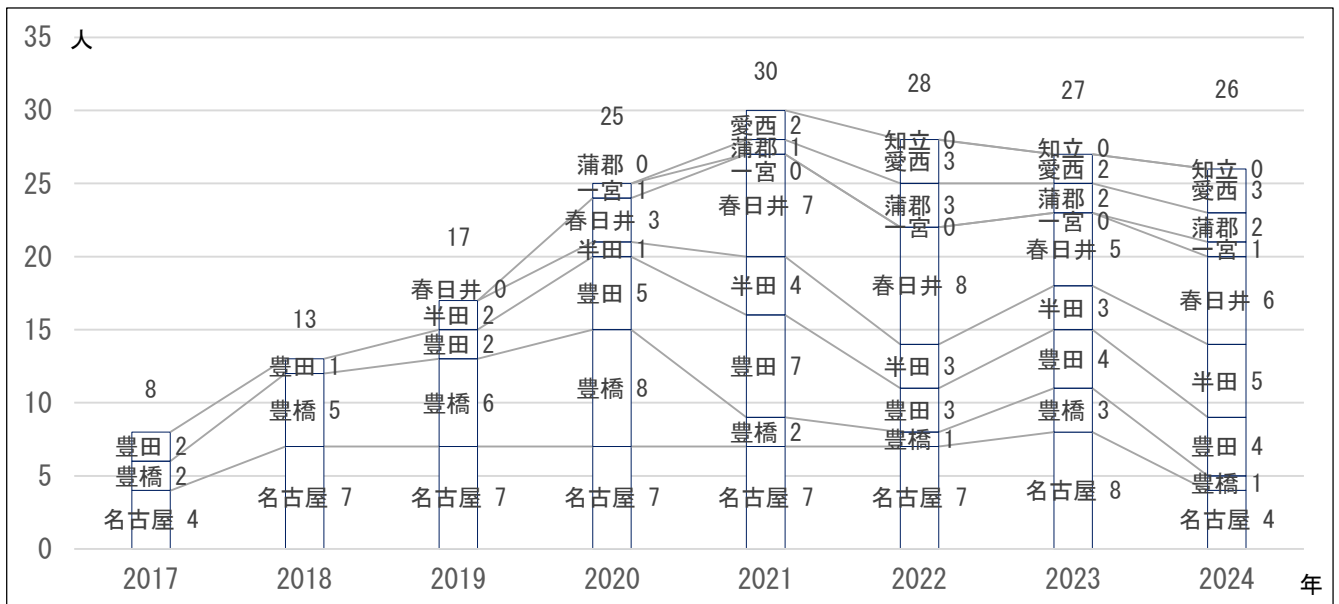
ア 学習支援参加者



イ 高卒認定試験・全科目合格者数



ウ 高卒認定試験・好転者（全科目合格＋一部科目合格）数



### 3 2024（令和6）年度「若者・外国人未来塾」の実施状況

#### 名古屋地域（学習支援）

#### 1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズをもっているのか）

##### ア 参加の経緯

インターネット（県サイト）、他機関（行政、専門支援団体・機関等）からの紹介、図書館等でのチラシの入手

##### イ 状況、ニーズ等

- ・高校を中退して本事業に参加、高認に合格して次の進学・就労などの希望進路を実現したいと考えているニーズ（主に10代～20代）
- ・不登校や疾病等で十分に学校教育を受けられなかったが、学び直して高認に合格、あるいは、高校への入学を考えているニーズ（主に30代以上）
- ・障害等で普通科高校のカリキュラムで学ぶことは難しかったが、高認に合格し、大学等への進学を目指したいと考えているニーズ

#### 2 参加者の感想・メッセージ

感 想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
<p>いろんな先生がいて、分かりやすいです。つまづくこともあるけれど、いろんな先生が、いろんな教え方をしてくれるので、分からなかったことが分かるようになるなどと有難いです。（30代）</p>	<p>できたら他の場所でもやっていたらなと思います。</p>	<p>迷っているならぜひ来てください。一度教えてもらってから決めるのもいいと思います。自分のペースで、行けるときに行くことができるので無理なく始められます。</p>
<p>初めて参加した頃は過去に学習したことをほとんど忘れていたため、記憶力に自信がなかったが、中学の基礎問題を学習していく中で問題が解けるようになってきて、少し自信が出てきました。（50代）</p>	<p>休みの日を確認する時に、どこに連絡してよいか確実な連絡先を知りたい。</p>	<p>自己都合で20分、30分しか参加できなくても、月に1、2回でも、学習会がある限り、卒業できるまで気軽に通えるので、久しぶりの参加でも「気まずい。」とか心配せず、体調を優先に考え、無理のない範囲で、中学1年の基礎からでも学べて安心です。</p>

### 3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	12名 ・大学生、大学院生（7名） ・元教員（3名） ・法人スタッフ（2名）
スタッフの募集方法	・スタッフによる知人・後輩等の紹介
スタッフ確保のための方策	・スタッフ同士のコミュニケーション（現在のスタッフが続けられる仕組みづくり） ・大学等への広報 ・大学の実習等での受け入れ

### 4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
チラシ	・公共機関、図書館	他団体等とつながりのない参加者のきっかけ
地域協議会・研修等	・若者支援団体等	各団体での実践を経由した参加者の紹介等
インターネット	・県サイト、団体サイトでのチラシ公開	他団体等とつながりのない参加者のきっかけ

### 5 取組の工夫

<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規参加者や、高卒認定受験後等のタイミングで学習相談を丁寧に行うことで、個別の学習ニーズの把握や、進路選択の情報提供などに努めた。</li> <li>・本人が無理なく学習を継続することができるペースや、学習への取り組み方についての助言を行うことができた。</li> <li>・学習が進めやすいよう、既製の教材を渡すだけでなくポイント等をまとめたオリジナル教材を渡すなどスタッフによる独自の取組を行うことができた。</li> </ul>
---

### 6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高認受験者の着実な合格</li> <li>・高認合格後も、継続して学習するために参加する利用者がいたこと</li> <li>・支援スタッフ間での情報共有や、支援スキルを高め合う意識の喚起</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度と比べた参加者数の減少、併せて年度内の高認受験者の減少</li> <li>・高認合格自体が目標になっている参加者の継続的な参加を促したり、進路について考えたりするきっかけをつくること</li> </ul>

## 7 運営者の声

参加者数の減少について、他機関と連携してニーズをもつ参加者への呼びかけを行うとともに、一度参加した後に継続して学習することができるよう、毎回の支援では次回の見通しを示したり、到達点を確認したりといった工夫を行っていくことが大切であると考えている。新規の参加者は、他機関からの紹介で参加するケースと、インターネット等で情報を見て、直接参加するケースがある。インターネット等で情報を見つけた参加者には、高認合格後の進学や就労等に関する情報や支援機関とのつながりが十分でないケースが見受けられ、適切な助言や紹介を行うことが大切である。そのために、支援スタッフも関連領域の専門支援団体・機関に関する情報を得たり、研修を行ったりすることが必要であると考えている。

### 参加者ピックアップコラム

(団体名) NPO法人あいち・子どもNPOセンター

#### Aさん (10代 女性)

高校時代に不登校となり中退し、他の支援機関からの紹介で参加。2023年度から継続参加し、本人とペースを相談しながら高認を受験し、全科目合格することができた。

#### Bさん (10代 女性)

外国にルーツをもち各種学校に通っているが、日本の大学への進学も選択肢に入れるため、高認の受験を希望。海外のカリキュラムや専門用語との違いに注意しながら支援を行い、認定試験合格。合格後も、各種学校の課題等を自習する場として本事業を活用。

#### Cさん (20代 男性)

疾病があり高校中退。学習への意欲は高いが、その支援が受けられる場がなく、他の支援機関からの紹介で本事業に参加。自身の力でワークを進めながら、支援スタッフと生活や進路についての相談もしている。

## 豊橋地域（学習支援）

### 1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズをもっているのか）

#### ア 参加の経緯

- ・通訳を介した南米人コミュニティーのロコミ。
- ・中学校や、市の学校教育課、隣接市の国際交流協会から
- ・インターネット

#### イ 状況、ニーズ等

- ・高卒認定試験合格のための学習と、外国人を対象とした日本語学習支援を受託しているが、この中間の「日本語を話せるが家庭で日本語を使わないために徐々に学校の学習についていけなくなる外国人中高生」に対する支援も行っている。この層の参加者が一番多い時期もある。（小学生は受け入れていない）
- ・高校を中退し、今後専門学校もしくは大学へ進学するために高卒認定試験の合格を目指している利用者がいる。
- ・高校を中退して数年が経ち、既に成人しているが何かに挑戦したいという利用者が高卒認定試験の受験を目指している。

### 2 参加者の感想・メッセージ

感 想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
人見知りでもコミュニケーションがとりやすく、勉強の教え方が分かりやすい。（10代）	この場所に来るまでに、よく渋滞にひっかかる。（拠点の立地条件の問題）	勉強が分からなくても、ここではいろんな勉強が学べるから、一回でもいいから来て欲しい。
特に決められた日に来なければいけないということがなく、自由に参加できるので通い続けることができている。（20代）	人数が多いと声が重なってしまい、集中できない時がある。	気軽に参加してみるといいかもしれません。
普段家で勉強することができませんが、ここに来て学び直しができます。（20代）	特になし	目標が無くても大丈夫です。

### 3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	6名 ・学習支援経験者（3名） ・通訳兼相談員（1名） ・新規学習支援員（2名）
スタッフの募集方法	・今年度募集はしなかった。
スタッフ確保のための方策	・他の支援団体との情報交換による ・当法人のサポートステーション経由 ・市の相談機関「ココエール」から紹介していただいた

### 4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
口コミ	・通訳を介した南米人コミュニティー	様々な事情で学校に通えていない外国にルーツがある方の利用につながった。
インターネット	・ <a href="https://npoimakara.org/gakusyu/gakusyu.html">https://npoimakara.org/gakusyu/gakusyu.html</a>	インターネット経由で来たという利用者がいた。
パンフレット	・市の学校教育課・あるいは市内の中学校から	学習に遅れのある生徒を学校から紹介された。

### 5 取組の工夫

<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者（あるいは保護者）が外国人の場合、通訳スタッフが保護者の相談に乗ることで利用者本人を紹介しない家族相談を行うことが可能になっている。</li> <li>・スタッフが苦手とする科目もあるが、他地域と同様にスタディサプリを利用できるタブレットが用意されている。</li> <li>・全員同時に学習するわけではないので、一人一人の状況に合わせた学習の支援を心掛けている。</li> </ul>
--

### 6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・去年度は中学生の参加者が多数を占めていたが、今年度は年齢層が広がり、平均年齢もやや上昇した。また、高校入学に間に合わずに来日した生徒の編入学や、日本語がほとんど話せないが高認取得と大学入試を目指す帰国子女の支援など、イレギュラーな対応を行うことになった。</li> <li>・就職したために来所が難しくなった利用者があるが、自分の力で継続的に学習ができるようになった。</li> </ul>
----	---

課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1回の利用者数が予測できない。スタッフが少ない時に大勢が利用することもある。特に、1対1でなければ学習を進めることができない利用者もいれば、支援員1名で複数人の利用者に対応できる場合もある。来所者によってはスタッフの手が回らない、またはスタッフ同士の声が重なって聞き取りづらくなってしまいうというケースがある。これが現状では最大の課題になっている。</li> <li>・ 拠点の問題。部屋に入りにくくなっており、身体が悪い利用者は使いづらい。</li> </ul>
----	---

## 7 運営者の声

去年度と比較すると利用者の状況は多様化した。幼少の頃から長期間外国に滞在していたために日本語がほとんど分からないという利用者が高卒認定試験を目指すケースや、4月に海外から帰国したために高校入学に間に合わなかった生徒の編入学準備など、対応が複雑化した。現在、当団体を利用している高卒認定試験受験予定者は活動的な方が多く、心身の不調で学校に行けなくなってしまったが学びたいという利用者に対するアプローチが弱かった。このような潜在的な利用者に対する広報を強める必要があった。また、外国にルーツがある利用者の中学校学習支援に関しては、家庭で日本語を使わないために教科書の用語を誤解したまま学習を進めていることが多い。早期に対応することが求められる。利用者ごとに状況が大きく異なり、たくさん利用した方がいい方、宿題を多めに出して時々の来所で十分な方などがある。

### 参加者ピックアップコラム

(団体名) NPO法人いまから

#### Aさん (20歳代 女性)

Aさんは高卒認定試験の合格を目指しています。高校に途中までは通っていたため、いくつかの科目は免除され、残りの科目の合格を目指して頑張っています。不安を感じやすく自信がもてない性格のために何かに挑戦をすること自体が精神的な負担になるようでした。しかし、知人から高卒認定試験の合格を目指してみたらどうかと促されて、私たちの団体につながりました。当初はゆっくりと、学習するのは来所した時だけというスタイルでしたが、徐々にペースが上がっていき、自分で本を買って自宅でも学習をするようになりました。昔、学んだことが無駄になってしまうのが嫌だという思いが強くなったとのことでした。受験は来年度になりますが、結果に関わらず自分の力で何かに挑戦できるようになるまで前進したことを嬉しく思っています。

## 豊田地域（学習支援）

### 1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズをもっているのか）

#### ア 参加の経緯

- ・学校で友人に誘われた。
- ・更生施設の人から「高卒認定を目指したらどうか」と紹介された。
- ・パルクとよたの先生の紹介。
- ・相談している福祉関係の課から紹介された。

#### イ 状況、ニーズ等

- ・家族が認知症で家では静かな時間が確保できないので、勉強する環境を手に入れたい。
- ・不登校から復帰したが勉強についていけないので、遅れてしまった分を取り戻したい。
- ・病気で中学3年生を1年間休んだため、今年は受験し高校に入学したい。
- ・高校で不登校になり退学したので、高卒認定に合格し大学に進学したい。
- ・更生施設に入居していて、将来のため小学校の学習から始めたい。

### 2 参加者の感想・メッセージ

感 想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
認知症の高齢者が同居しているので、家で勉強できる環境を確保できない。（10代）	特になし	いつも分かりやすく教えてもらえるし、2時間集中できる環境なのでとても良い。
中3の時病気になり1年間学校に通えず勉強が分からなかったが、高校受験に向け学力がついた。（10代）	特になし	粘り強く教えていただいている。
高卒認定に合格できたので大学を受験できる。（20代）	特になし	マンツーマンで丁寧で上手に教えてもらえる。

### 3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	7名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員OB（4名）</li> <li>・大学生（3名）</li> </ul>
スタッフの募集方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口コミ</li> <li>・未来塾受講生OB</li> <li>・教員OBへの呼びかけ</li> </ul>	
スタッフ確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップなどの学生</li> <li>・ボランティア会議で説明し参加者に紹介してもらう。</li> </ul>	



#### 4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
チラシ	・公共施設	特になし
関係団体への周知依頼	・市福祉関係課 ・市青少年相談センター	紹介事例あり
HP	・一般	特になし

#### 5 取組の工夫

<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講生の状況を記録する学習支援記録表を、他の講師が見ても理解しやすい様式に変更した。</li> <li>・学習に必要なコピーなど、担当職員以外でも気軽に対応できるようにしている。</li> <li>・担当以外の職員も見学に行くなど、青少年センター全体で支援できる体制に心がけている。</li> </ul>
--

#### 6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習支援をしてきた受講生1名が高卒認定試験に合格。令和7年度大学入学に向け勉強中。</li> <li>・学習支援を受けてきた高校生1名が大学に推薦で合格。</li> <li>・認知症の家族がいて家庭の学習環境で困っていた受講生が、勉強時間を確保できるようになった。</li> <li>・講師の努力もあり、和気あいあいとした雰囲気の学習会場になっている。</li> <li>・受講生が口コミで友達を誘ってくるようになり、参加者が増えた。</li> <li>・受講生が大学生になり、大学生スタッフとして参加してくれている。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校教員の経験がないと高卒認定試験に必要な科目（履修状況）の判断が難しい。</li> <li>・未来塾の雰囲気がいい反面、新しく参加しようと思うと輪に入りにくいと感じる受講生もいる。</li> <li>・高校生に英語を指導できる講師がいない。</li> <li>・同じ講師が同じ受講生を指導してはいないので、個々の学習具合を講師全体で把握できない。</li> <li>・新しい講師の確保が難しい。また、理数系に強い大学生スタッフの確保も難しい。</li> <li>・未来塾の受講生が増えてきた。将来的に講師の増員や謝礼の確保をどうするか。</li> <li>・社会福祉協議会や市よりそい支援課などからの問合せや紹介回数が増えた。見学には来るが、家から遠い、あるいは、保護者の送迎の都合がつかないなど、なかなか受講に結びつかないことが多い。</li> <li>・青少年相談センター（パルクとよた）のPRなどで、今後、不登校から回復した参加者の増加が予想される。参加しやすい受け入れ環境や指導者の共通理解をどう整えるかが課題。</li> </ul>

## 7 運営者の声

- ・不登校や日本語力不足のために学習支援を希望する受講生が多く、高卒認定合格を目標に通う参加者が少なくなっている。
- ・教員OBスタッフの確保が難しい。公立学校の再任用教員が、有償でスタッフに参加できるような仕組みができるとよい。
- ・年齢が違う参加者同士でも上手にコミュニケーションが取れ、明るい雰囲気での学習会場になっている。教員OBスタッフの努力もあるが、受講生のOBが大学生スタッフになったことも、人間関係が円滑な一因になっている。

### 参加者ピックアップコラム

(団体名) 豊田市青少年センター

#### Sさん (15歳 男性)

祖母が認知症のため、家で落ち着いて勉強する環境ではない。市の福祉関係職員に相談したところ若者・外国人未来塾を紹介された。家は少し遠いが、家族に送迎してもらっている。安心して学習できる環境ができて喜んでいる。現在高校受験合格に向けて頑張っている。

#### Tさん (16歳 女性)

中学3年生で病気になり、1年間学校に行けなかった。卒業はできたが、高校入試に必要な学力が不足、一人で学習する方法も分からなかった。市福祉関係の職員に紹介されて参加。大変楽しみながら学習を続けている。音楽系の高校に進学希望だが、将来は教員を希望している。音楽系の高校に進んでも、教員養成系大学に進学するための勉強ができるか不安に思っている。

## 半田地域（学習支援）

### 1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズをもっているのか）

#### ア 参加の経緯

- |           |                |             |
|-----------|----------------|-------------|
| ・市町村広報    | ・市町村総合相談窓口     | ・市町村社会福祉協議会 |
| ・市町村教育委員会 | ・委託団体作成の地域のチラシ | ・学校の先生      |
| ・就労支援機関から | ・病院から          | ・臨床心理士からの紹介 |
| ・知り合いから   | ・親から           | ・サポステ利用者    |

#### イ 状況、ニーズ等

- ・高卒認定受験目的                      ・高校単位取得の補助として高卒認定試験受験
- ・中卒、不登校、高校中退者の進学目的
- ・通信制・定時制高校での勉強内容のサポート
- ・勉強をとおした居場所              ・進級試験の合格のため
- ・SPIや一般筆記試験の勉強              ・PCスキル向上

### 2 参加者の感想・メッセージ

感想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
<p>スタッフの方が分かりやすく教えてくれるので、一人で勉強するより効率よく学べるのでとても助かっています。      (10代)</p>	<p>特になし</p>	<p>コミュニケーションが苦手でもスタッフの方から話しかけてくれるので、あまりうまく話せなくても、いろいろと学ぶことができます。</p>
<p>外出しないと学ぶことに取り組めない性分なので、外出して学習したいがカフェや図書館では騒がしかったり、誰かと約束したりしたわけではないので、結局続かなかった。でもこの学習支援では、担当の方と「何月何日に来る予定です」と約束するので、外出するように仕向けることができる。また、利用者の皆さんが「学ぶ」という共通の目的で利用しているので、学習意欲を邪魔されることなく集中して続けられる。      (20代)</p>	<p>会場の特性上、仕方ないが隣の部屋でマイクなどを使われるときに、少し利用意欲が下がる。</p>	<p>もし、私と同じような理由で家でも外でも学習が進まない方がいらっしゃるなら、一度、利用してみてもいいかなと思います。</p>

### 3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	6名 <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生（2名）</li> <li>・元教員（2名）</li> <li>・塾・家庭教師経験者（2名）</li> </ul> ※通常前半は4名、引き継ぎを兼ねて次年度に向けて後半は6名体制としている
スタッフの募集方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の学校教育課相談</li> <li>・大学への求人情報依頼</li> <li>・サポステの利用者の中で可能な人物</li> </ul>
スタッフ確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉的要素が必要であり、配慮や特性の知識が必要なために福祉大学からのアルバイト求人を出し、結果、インターンシップのような感じで学生も学んだことを生かせる現場となっているため、実践経験を積み将来に生かして利用者の成長のみでなく、支援員の成長も大切にしている。</li> <li>・サポステ職員にも関わってもらい、スムーズな高卒認定受験後のサポートや勉強の目的の確認など行ってもらえるように、新職員にも発達障害の研修に参加して知識をつけてもらう。</li> </ul>

### 4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
会議配布	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町の教育委員会、学校教育課</li> <li>・市町の生活困窮を扱う窓口</li> <li>・市町の社会福祉協議会</li> <li>・ハローワーク</li> <li>・保健所の相談窓口</li> <li>・児童相談所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SSWからの相談</li> <li>・医療機関からの相談</li> <li>・学校教育課からの相談</li> <li>・社会福祉協議会からの相談</li> <li>・生活援護課からの相談</li> <li>・名古屋保護観察所からの相談</li> </ul>
事業説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の円卓会議</li> <li>・保護者勉強会</li> <li>・HPやSNSでの情報配信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親同士の情報共有で紹介</li> <li>・サポステからの利用</li> <li>・子育て支援課からの紹介</li> </ul>
学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知多半島の全中学校と高校</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校長先生やSSW、進路指導主任からの問合せや紹介</li> <li>・高卒認定受験者が単位表をもらいに学校へ行き、先生が良い変化に気づきそこで知る</li> </ul>

## 5 取組の工夫

- ・相談窓口から紹介の場合、配慮事項もあることから、利用状況を支援員で共有している。
- ・付きっ切りでないと集中がもたないタイプと、学習を自分で進められるタイプで支援員の配置を調整し次回来る日程を調整して行う。
- ・キャリア教育としてお金の勉強を取り上げるも、台風で影響を受けたため高卒認定試験まで余裕のある時期に再度行う。
- ・友人がいない等家族以外の関係性が乏しいかたは、支援員との関わりの中で人との関わり方や話すことへの抵抗を軽減し社会性を身に付けてもらうよう促す。  
(一人で来ることができない方はいずれ一人で通う・・・電車に乗れる等、お休みには自分で電話かメールにて連絡を事前に入れる等、次回の来る日を自分の意思で決めてもらう等)
- ・学習支援記録を利用者自身にも記載してもらい、担当した支援員、更に担当サポステ職員からコメントやメッセージをもらう。
- ・支援員間での支援記録の共有記載している。

## 6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<ul style="list-style-type: none"><li>・雰囲気以前より明るくなった。</li><li>・休憩時間には支援員と職員と話ができるようになった。</li><li>・自分の目標を立て、それに向けて努力する力が出てきた。</li><li>・学習支援のみではなく、他の選択肢や将来を考えるようになった。</li><li>・高卒認定試験合格後の進路が決まりやすくなった。</li></ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・職員の特性理解の研修や共有時間が少ない。</li><li>・外国籍の方の受け入れに「日本語が話せる」ことが条件になっている。</li><li>・個人情報管理のイニシャル表記が増えて、何も見ずに把握が難しくなっているため、管理方法について変えていきたい。</li></ul>

## 7 運営者の声

- ・支援員や職員のアップデートを図りたい。様々な利用者が増えて、対応できるように受け皿としての研修の機会を設けたいと考える。令和8年には、情報の科目が新設されるため、対応できるように考えたい。
- ・高卒認定受験者が毎回いることから、自然発生的に（高卒認定試験を）受験意欲が向上するといういい影響も出ている。
- ・大学生ばかりの支援ではなく、元教員の方を支援員に迎え合格率も上がった。
- ・サポステの職員が各担当についているので、支援員との共有や連携を図り関係構築や将来の選択肢についても早い段階でのサポートができています。

## 参加者ピックアップコラム

(団体名) NPO法人ICDS

### AHさん (30代 女性)

半田市生活援護課より問合せが入った。「体調が不安定なので、学習をして休憩する時に横になる場所はあるか？」というものであった。休憩の回数は個人のペースで入れてもらうことは可能であったが、椅子はあれど横になるところまでは準備は難しい状況。見学の際は医師の許可が出ているとはいえ、まだ自己管理も不安定で薬の影響で表情も乏しかった。短時間から始めることで学習支援を開始することとなった。体調が優れないときは無理をしないで休むということを目指した。御家庭の事情もあり、ここに来ている間はストレスから解放されているようで、思ったよりも早く御自身のペースをつかまれていった。統合失調症を抱えながらも高卒認定試験に合格したいという御本人の意思は固かった。勉強をすること自体が負荷をかけていないか心配もしたが、支援員との休憩時間はゲームや好きな作家の話をして笑顔も見られるようになった。高卒認定試験受験は3回に分けて受験する計画を立て進めたが、その間もお休みが続いたり3か月以上来られない日もあった。しかし、確実に実力をつけ毎回合格された。合格するたびに生活援護課の職員と情報共有し、支援の後半は将来を見据えて社会福祉協議会とも連携をした。

残すところあと一科目になった頃には、最初の頃が信じられないような軽やかな動きや表情をして笑っていらした。勉強と並行しながら、障害者雇用での就職活動も行い、11月無事に採用決定となり、高卒認定試験受験最後の科目も合格された。学習支援からは12月から卒業された状況であるが、仕事が休みの日に体調次第では、PCスキルの練習などに通いたいと希望され、安心して居場所となっているようであった。特定の支援員からスタートして、様々な支援員と関わることで変化も見られ、休む際の連絡はメールが中心であったが、それを機にビジネスメールのマナーも覚えていただいて仕事につなげることができている。

## 春日井地域（学習支援）

### 1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズをもっているのか）

#### ア 参加の経緯

- ・家族、知人からの紹介
- ・保護観察所からの紹介
- ・学校の先生やスクールソーシャルワーカーからの紹介
- ・サポステからの紹介
- ・自治体相談機関、担当課からの紹介
- ・愛知県教育委員会担当課のホームページを見て

#### イ 状況、ニーズ等

- ・定時制高校を中退し、高卒認定資格を取得後に大学進学を目指している。
- ・高校進学を目指して学習支援に参加している。
- ・学び直しを目的として、学習支援に参加している。
- ・通信制高校に在学中、課題レポートの進め方に悩み、学習支援に参加している。
- ・高卒認定資格取得後も、大学進学を目指し、学習支援に参加している。
- ・中学校在学中、ひとり親世帯で受験情報が不足しており、学習支援に相談があった。

### 2 参加者の感想・メッセージ

感 想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
家族以外に相談できる場所だった。学習教室が心の支えになっていた。心強かった。（20代）	特にない。	学習教室に参加してみたい。
自分に合わせて、受験勉強の範囲の確認や、一緒に学習計画を立てることができて、よかった。（20代）	会場がもう少し広いとよい。	学習教室に参加してみたい。
自分のペースで勉強することができた。質問がしやすい環境だった。（10代）	特にない。	なんでも質問ができる環境なので、参加してみたい。

### 3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	6名 ・日本語教師（1名） ・社会人（5名）
スタッフの募集方法	・サポステからの紹介 ・近隣の大学へのチラシ配布
スタッフ確保のための方策	・サポステへの広報、周知、チラシの配布 ・近隣の大学や地域の団体への呼びかけ・

### 4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
チラシ配布	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村の相談窓口</li> <li>・保健所の相談窓口</li> <li>・春日井地域協議会の参加団体</li> <li>・高齢者介護居宅支援事業所</li> <li>・春日井若者サポートステーション</li> <li>・スクールソーシャルワーカー</li> <li>・社会福祉協議会</li> <li>・ハローワーク</li> <li>・子ども食堂</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チラシ配布と併せて、事業説明を行った。相談窓口から、対象者へチラシを配布していただき、相談や利用につながったケースがあった。</li> <li>・他自治体の生活困窮者自立支援法に基づく学習支援事業より、学習教室につながったケースがあった。</li> </ul>
SNS	・X（旧 Twitter）での情報発信	特になし

### 5 取組の工夫

<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者の情報を共有するため、支援スタッフ同士が情報共有をする時間を設けている。</li> <li>・初回面談や学習支援での様子を見ながら、参加者の状況に合わせて、教材や資料を準備し、それぞれに合わせた支援を行っている。</li> <li>・参加者の中には、家庭や就労の関係で学習支援会場まで通えないことがあり、パソコンやタブレット端末を活用してオンラインの学習支援を行っている。</li> <li>・高卒認定資格取得後に大学や専門学校進学を目指す参加者が増加している。進学情報や受験情報など、情報提供を行っている。</li> <li>・参加者が自宅でも勉強できるように教材や学習方法について、検討を行った。</li> <li>・本人の将来や希望を複数で話す機会を設けた。</li> <li>・長期欠席が続く参加者に対して、定期的に近況確認を行っている。</li> </ul>
---



## 6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

<p>成果</p>	<p>【支援スタッフ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度 高卒認定試験 合格者3名、一部科目合格者3名</li> <li>・高卒認定資格取得後も大学進学を目指す参加者に対し、支援スタッフ間で情報を共有しながら支援方法を確認し、参加者に合わせた支援を行うことができた。大学受験した参加者は無事に合格することができた。</li> <li>・高卒認定試験終了後、参加者や支援スタッフと「将来について話す時間」を設け、学習支援の進め方について意見交換を行った。</li> </ul> <p>【運営者】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習支援の参加者数は昨年度と同数。令和6年度は、在学中の学校やスクールソーシャルワーカーからの紹介が増加した。</li> <li>・仕事や体調面の都合で毎回の参加が難しい参加者に対して、自宅でも学習できるように支援を進めた。その結果、一部科目合格という結果になった。</li> <li>・学習支援の参加者が、高卒認定資格取得後に学習支援員として活躍するケースがあった。</li> <li>・スクールソーシャルワーカーの方々に学習支援を見学していただき、教室の概要や具体的な支援事例について説明する機会をもつことができた。</li> </ul>
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習支援に参加する目的が多様化（居場所、進学、学び直し）している。支援方法などの工夫や学習支援員のスキルアップが必要となっている。</li> <li>・長期欠席者への働きかけや支援の進め方。</li> <li>・学習支援員のスキルアップ。</li> </ul>

## 7 運営者の声

<p>令和6年度の参加者数は令和5年度と同程度だったが、学習支援の延べ参加者数は減少している。アルバイトや体調面の影響で毎回の参加が難しい参加者が多く、また、高卒認定資格取得後の目標が定まっていない参加者は、継続して通うことができていない状況が見られた。</p> <p>こうした参加者に対しては、学習支援参加時の様子を見ながら「雑談」の時間を設け、支援を進めている。長期欠席者には定期的に近況を確認し、支援が途切れないよう働きかけを行っている。</p> <p>参加者の年齢層は10代から20代前半が中心で、大学や専門学校進学を目指す方、在学中で卒業を目指す方など、学習の目的が多様化している。学習支援員の協力のもと、各参加者の学習目的に応じた効果的な支援が提供できたことは、大きな成果であると感じている。</p> <p>参加者の目的やニーズが多様化し、学習支援に求められることも増えているが、地域資源の一つとして、可能な限り対応をしていきたいと考えている。</p> <p>また、進学した卒業生の中には、学習支援に顔を出してくれる人もおり、学習支援が参加者にとって一つの居場所となっていることが伺える。</p>
--

## 参加者ピックアップコラム

(団体名) 労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団

### Aさん (20代 女性)

令和元年から学習支援に参加しているAさん、通信制高校に在学していますが、家計を支えるために複数のアルバイトを掛け持ちし、休学状態が続いていました。

学習支援では、学校のレポートと一緒に進めていましたが、アルバイトが忙しく、長期欠席することもありました。令和6年度に入り、少しずつ家庭の環境が整い始め、正社員への転職が決定。会社の理解も得られたことで、高卒認定試験を受験し、令和6年度は一部科目に合格しました。

現在、学習支援では学習相談に加え、仕事の悩みなどを聞く時間を設けながら支援を進めています。次年度の高卒認定試験合格を目指しています。

### Bさん (10代 男性)

令和6年度より学習支援に参加しているBさんは、高卒認定資格の取得を目指して学習支援につながりました。高卒認定資格取得後は漠然と大学進学を考えていましたが、具体的な目標は定まっていませんでした。

学習支援では、高卒認定試験に向けた支援を行い、無事に全科目合格という結果になりました。合格発表後には、今後の目標について学習支援員も交えて話し合う時間を設け、Bさんが本当にやりたいことを優先しつつ、勉強は継続することとなりました。

学習支援では、Bさんの挑戦したいことを否定せず、家族の意向も聞きながら支援を進めています。

## 一宮地域（学習支援）

### 1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズをもっているのか）

#### ア 参加の経緯

- ・通っていた中学や高校の先生の紹介
- ・市内や近隣市町村の行政機関からの紹介
- ・市のホームページを見て参加
- ・通院している病院の先生の紹介
- ・市のSSWの勧めで見学

#### イ 状況、ニーズ等

- ・実施5年目を迎えて、地域協議会の会議を積み重ねることで、学習支援センターの認知度が少しずつ高まり、市の様々な行政機関や外郭機関からの紹介が増えてきた。
- ・それまで頑張ってきたが2学期になって登校できなくなり、利用することになった。友人関係が悪くなって不登校になった高校生。また、起立性調節障害のために朝の登校ができなく、欠課時数オーバーとなって中退した高校生が利用を始めた。二人とも高卒認定試験に合格して上級学校に進学することを目指している。
- ・親の事情で現地の中学を卒業して来日した若者。日本語は全くできなく、ひらがなやかけ算（九九）から始めている。日本の高校に進学するために市内の日本語教室に通いながら当教室で勉強をしている。

### 2 参加者の感想・メッセージ

感 想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
良い経験になっている。数学、割り算。九九はベスト。 (外国籍 10代)	特になし	特になし
講師の皆さんがとても温かく見守ってくださり、教えてくださるの で勉強を進めやすい。(10代)	特になし	もし困っているなら、迷わず 来てほしい。
私は勉強のことで人に聞くことが 苦手だけどスムーズに問題を解く ことができます！(10代)	特になし	特になし

特になし	特になし	一宮市立図書館の広い一室で環境も良く、生徒さんの人数が少ないこともあり、一対一で指導してもらえます。個人で学びたい人はマイペースでも学ぶことができ、目標に向かって前進することができる場所です。
------	------	--

### 3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	5名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現役大学生（2名）</li> <li>・日本語教室のスタッフ（1名）</li> <li>・退職教員（2名）</li> </ul>
スタッフの募集方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の学習支援スタッフからの紹介</li> <li>・元の職場への依頼や声かけ</li> </ul>	
スタッフ確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知人を介しての勧誘</li> <li>・一宮市市民活動支援センター内での募集チラシの掲示</li> </ul>	

### 4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
案内チラシ 地域協議会メンバー	・一宮市役所とその外郭団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市のHPを見て参加</li> <li>・青少年センターから紹介</li> <li>・受診している病院からの紹介</li> <li>・市のSSW同伴と見学</li> </ul>
案内チラシ	・近隣市町村とその外郭団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通っていた塾の先生の紹介</li> <li>・近隣市教委からの紹介</li> </ul>
案内チラシ	・一宮市立図書館や近隣の図書館	・チラシを見ての見学者あり

### 5 取組の工夫

<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国籍参加者に対して、スマホの翻訳アプリを活用した。</li> <li>・外国籍参加者の増加に伴い、日本語指導の経験のあるスタッフを確保した。</li> <li>・利用者の担当者を概ね決めておく。</li> <li>・利用者が自分のスマホを使って学習することを推奨している。</li> <li>・温かい雰囲気をつくる。</li> <li>・利用者との距離感を大事にしている。特に、対人関係に不安をもつ利用者への配慮には気を配っている。</li> </ul>
--

## 6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<ul style="list-style-type: none"><li>・日本語指導の経験のあるスタッフが増えたことで、外国籍参加者への対応がしっかりでき、継続して参加している。</li><li>・地域協議会も回数を重ね各機関とのつながりも深まり、相談しやすくなった。結果、いろいろな機関からの紹介が増えてきた。</li><li>・近隣市町村へのチラシ配布によって、地域以外の市町村からの利用者が増えている。</li><li>・参加者同士の結びつきが深まり、お互いに相談しあう雰囲気が出てきた。将来の進むべき道を見つけた参加者もいる。</li></ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・本国で中学を卒業してから来日する外国籍参加者の中で、日本の高校受験をする上で言葉（特に学習言語）の壁が大きな負担になり、途中で帰国してしまったケースがある。</li><li>・高卒認定試験に取り組む中、理数系のスタッフがいらないため、今後、利用者さんのニーズに十分応えられなくなるのではないかと危惧している。</li><li>・スタッフの確保が思うようにならない。</li></ul>

## 7 運営者の声

開設して5年目を迎える。利用者の数も増えたが、ほとんどの利用者が継続して参加している。市内の行政機関だけでなく、近隣の諸機関からの紹介が増えてきた。広報活動の効果が表れてきた。

今年度は、（学校の）2学期が始まってすぐの利用者が複数人いる。友達関係や起立性調節障害により登校できなく高校を中退してきた高校生が複数いる。

一方、利用者の中に通信制高校に進学しながら当教室に参加している利用者がある。上級学校への進学を目指して、両立させている。

今年も7月になって、日本語がまったく分からない現地の中学校を卒業した外国籍の利用者がいる。アルバイトをしながらも週2回の学習支援を休まず来ている。日本語教室にも通い、必死になっている姿は他の利用者にも良い刺激になっている。

異年齢だけでなく、異文化の人たちの集合体でもある学習支援は多くの課題を抱えながらもここに集う一人一人がお互いに刺激し合いながらそれぞれの夢を追っている。彼らのその姿に支援者自身も素晴らしい時間を共有している実感をもつ。

## 蒲郡地域（学習支援）

### 1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズをもっているのか）

#### ア 参加の経緯

定時制通信制高校説明会、紹介（中学校、適性指導教室、サポートステーション、サポートステーション利用者、学習支援員、北斗寮スタッフ、生活支援センター、日本語教室）、インターネット、母親からの相談、チラシを見て、親の勧め、SSW

#### イ 状況、ニーズ等

- ・高校を中退又は不登校になって中退しようか悩んでいる高校生とその保護者からの相談が増えた。そのため、参加者の年齢は10代と20代が多くを占め、8割以上が10代である。
- ・高校を中退し高卒認定試験の勉強のために学習に参加。
- ・中学校を進路未定で卒業し、相談や学習のために参加。
- ・中学校を不登校で学習に参加していた生徒が、定時制や通信制に進学後も学習補助のために参加を継続している。
- ・中学校不登校の生徒が、学習支援に参加して中学校では出席扱いになっている。

### 2 参加者の感想・メッセージ

感 想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
勉強を教えてもらいました。とても分かりやすい説明で、勉強が苦手な私でも理解できて、勉強する時間が楽しみになりました。相談なんかも聞いてもらって、勉強面でも不安も少なくなりました。 (10代)	特にありません。いつもありがたい助言をくださって助かっています。	知り合いと受けたのですが、一人一人違った学習ペースで教えてもらったので、とても助かりました。それぞれに合った勉強法も教えてもらったので、助かりますよ。
数学を教えてもらったことと人と話せる機会があるのが良い。 (10代)	特になし	楽しいよ。
英語を教えてもらった。(30代)	日曜日もやってほしい。	自分のレベルや、やりたいことに応じてもらえるので、継続しやすい。

### 3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	3名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塾講師経験者（教員免許保有）（1名）</li> <li>・元役員（MBA（経営学修士）・教員免許保有）（1名）</li> <li>・若者自立支援経験者（1名）</li> </ul>
スタッフの募集方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サポステスタッフからの紹介</li> <li>・チラシを見て活動に興味をもって応募</li> </ul>	
スタッフ確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・義務教育OBの知り合い</li> <li>・サポステスタッフの知り合い</li> </ul>	

### 4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
チラシ配布、又は訪問による説明等（来所も含む）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・蒲郡市における子ども・若者地域支援協議会関係者</li> <li>・豊川市における子ども・若者地域支援協議会関係者</li> <li>・蒲郡市内図書館</li> <li>・豊川市内図書館及び生涯学習センター</li> <li>・蒲郡市内の中学校（7校訪問）</li> </ul>	<p>各機関・団体の責任者、又は担当者レベルでの事業の周知ができた。</p> <p>参加者と進路相談等しているうちに、関係する学校や機関と連絡を取り合い、連携して支援をするようになった。その際、各学校や機関等の方々へ本事業の周知ができた事例もあった。</p>
地域協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者未来応援協議会（豊川市、蒲郡市）2か所</li> </ul>	<p>協議会を通じた事業の周知、情報共有や担当レベルでの顔合わせができた。</p>

### 5 取組の工夫

<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者のニーズに合わせて、1対1の個別支援をしている。</li> <li>・参加者が安心して来所できるように、予約制で担当する学習支援員が決まっている。</li> <li>・参加者一人一人に学習記録のファイルを作り、記録することで支援員間の情報共有を円滑にしている。</li> <li>・学習するテーブルはパーテーションで仕切られていて、周囲からは見えないので集中して学習できる環境になっている。</li> </ul>
---

## 6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

<p style="text-align: center;">成果</p>	<p>○支援スタッフ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路未定で中学校を卒業した参加者3名の進路が決まった。</li> <li>・高校を中退した者が学習に参加するうちに、高卒認定試験合格を目標に勉強し始めた。</li> <li>・高校を中退し、高卒認定試験に合格した参加者2名が次の目標に向かい動き出した。</li> <li>・3名が高校に合格した。中学校は不登校だった参加者が、高校に通うようになった。</li> <li>・進路未定で中学校を卒業した生徒にとって、次が決まるまでの居場所となっている。</li> <li>・当初は、中学校不登校で本人は来所できず母親のみでの相談だったのが、本人も参加できるようになった。</li> </ul> <p>○運営者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関との連携を重ねたことで、機関や団体等からの紹介も増えた。支援が必要な方へつながるようになった。</li> <li>・学習支援の周知により、今年度も高校を退学しようか悩んでいる状態、中学校を進路未定で卒業した方から機関を通さず直接連絡が来ている。</li> <li>・中学校との連携により、今年度も蒲郡市と豊川市の各学校の校長先生の判断において、学習参加が不登校生徒の出席扱いになっている。</li> </ul>
<p style="text-align: center;">課題</p>	<p>○支援スタッフ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スタディサプリを活用したいが、テンポの良い説明についていけないなど、参加者のレベルと合わないので継続した利用ができていない。</li> <li>・高卒認定試験合格を目指していても、仕事や家庭をもっていると試験勉強が二の次になってしまい、学習へのモチベーションが下がってしまう。</li> <li>・支援対象者の多くが、自宅で勉強する習慣に乏しく、習ったことを復習しているか疑問なケースが多い。パートやアルバイトでその時間を取りにくいという背景もあると考えられるが、支援の成果が上がりにくい原因として、復習時間の不足があると考えている。このため、一部の参加者に宿題を出すようにしてみたところ、過去のテキストを見ながら、自力で解こうとする姿勢が伺えるようになってきた。今後、宿題を出す方向で学習効果を上げようと考えている。しかしながら、対面での学習時間は教えることに費やさざるを得ず、宿題の添削（コメント記入）は学習時間外で行う形となっており、スタッフの負担増となっている。</li> </ul> <p>○運営者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高卒認定試験を受験する参加者がなかなか増えない。無料で学習できることをさらに周知する必要がある。</li> <li>・年々、定時制や通信制高校に在籍する生徒が増えており、そのような生徒への学習支援は必要になっている。しかし、周知が十分にされていない。</li> <li>・高卒認定試験や日本語学習の利用者からは、「もっと勉強したい」との声があるが、予算の都合上、開催日時を増やせず要望に応えることができない。</li> </ul>



## 7 運営者の声

令和2年度から実施しているこの事業も、今年度5年目を迎えました。若者支援には、各関係機関と連携する必要性、重要性をますます強く感じています。そして、関係機関、団体の方々の平素からの御理解と御協力に感謝するとともに、これまでの支援ネットワークと培ってきたノウハウを今後の本事業をとおして、悩みを抱える若者・外国人の支援に役立てていきたいです。

不登校やひきこもりは増加傾向であり、どこに行き、何の支援を受けたらいいのかも分からない状況では、不安でいっぱいだと思います。本人だけでなく、必要に応じて保護者との面談も行うことで、少しでも安心してもらえたらと思います。

今年度も中学校を進路未定で卒業、あるいは、高校を中退した参加者が、次のステップである高校進学や就職へ向かうことができました。学習支援の場所が、地域若者サポートステーションであるため、就労支援への移行もスムーズにいきました。「何をすればいいのか分からない。」と不安を抱えている方の置かれた状況は様々ですが、本事業の学習支援が次のステップへの「居場所」となっていると感じています。

### 参加者ピックアップコラム

(団体名) 青少年自立援助センター北斗寮

#### Tさん (10代 男性)

中学校を進路未定で卒業し、2年ほど自宅にいましたが、2023年から学習に参加しています。小学校から不登校で、学習支援の場所に慣れるまでの4か月ほどは、母親同席で学習に参加していました。学習支援員の問いかけに「はい」「いいえ」の反応は何とかできていましたが、自ら話すことは難しい状況でした。それが継続して参加するうちに、少しずつ話せるようになり、分からないことも自分から質問できるようになりました。そして、今年度の春には目標であった高校進学も果たし、現在も毎週、学習に参加しています。この調子で継続できるよう、見守っていきたいです。

## 愛西地域（学習支援）

### 1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズをもっているのか）

#### ア 参加の経緯

- ・以前、学習会に参加していた利用者
- ・知人、家族からの紹介
- ・市役所相談窓口からの紹介
- ・愛知県担当課のホームページを見て

#### イ 状況、ニーズ等

- ・定時制高校を中退、高卒認定資格を取得し、保育士を目指している。
- ・昼間定時制高校に在学中、体調面などあり、通学することができず。高卒認定資格を取得し、大学進学を目指している。
- ・国家資格を受験するために高卒認定資格取得を目指している。
- ・シングルマザーで将来、保育士になりたいとの希望があり、高卒認定資格取得を目標にしている。

### 2 参加者の感想・メッセージ

感 想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
一人で勉強だったら受かっていなかった。参加したことで救われた。（10代）	特にない。 会場の場所。	新しい場所に参加するのは、勇気がいると思うけど、気負わずに気軽に参加してみしてほしい。
アルバイトがあり、会場まで通うことができなかったが、リモートで学習支援をしてもらってありがたかった。（10代）	リモート学習会中に回線が不安定なことがあった。	挑戦してみてください。
学校とは違った環境で、楽しく勉強ができた。自分のペースに合わせて勉強することができた。（10代）	特にない。	色んな相談も聞いてくれるので参加してみしてほしい。

### 3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	5名 ・元教員（1名） ・社会人（4名）
スタッフの募集方法	・サポステからの紹介 ・法人内で募集
スタッフ確保のための方策	・サポステでの募集 ・大学等にチラシの掲示依頼

### 4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
チラシ配布 事業説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村教育委員会</li> <li>・市町村の相談窓口、担当課</li> <li>・津島公共職業安定所</li> <li>・地域協議会の参加団体</li> <li>・津島若者サポートステーション</li> <li>・社会福祉協議会</li> <li>・愛西市立佐織中学校</li> <li>・子ども食堂</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チラシの配布と合わせて、事業説明を行った。相談窓口から、対象者へチラシを配布いただき、相談や利用につながったケースがあった。</li> <li>・市町村の教育委員会の中で事業周知をいただき、中学校でチラシを配布いただいた。</li> </ul>
SNS	・X（旧 Twitter）での情報発信	特になし

### 5 取組の工夫

<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団が苦手な方やシングルマザーの方など、会場への来所が難しいケースもあるため、パソコンやタブレットを活用し、リモートでの支援を行っている。</li> <li>・参加者の情報を共有するため、支援スタッフ同士が情報共有をする時間を設けている。</li> <li>・初回面談や学習教室での様子を見ながら、参加者の状況に合わせて、教材や資料を準備し、一人一人に合わせた支援を行っている。</li> <li>・参加者の中には、家庭や就労の関係で学習教室まで通えないことがあり、パソコンやタブレット端末を活用してオンラインの学習支援を行っている。</li> <li>・参加者が自宅でも勉強できるように教材や学習方法について、検討を行った。</li> <li>・長期欠席が続く参加者や卒業生に対して、定期的に近況確認を行っている。</li> </ul>
---

## 6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

<p style="text-align: center;">成果</p>	<p><b>【支援スタッフ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度 高卒認定試験 合格者2名、一部科目合格者1名</li> <li>・不登校気味の中学生を受け入れている。学習教室に毎回参加し、学習意欲が向上している。</li> <li>・高卒認定資格取得後に大学を目指していた参加者が無事に合格することができた。</li> <li>・参加者にとって安心できる居場所となるように学習だけでなく、雑談を大事にしている。</li> </ul> <p><b>【運営責任者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域協議会のつながりから、中学校でチラシを配布していただいた。</li> <li>・大学受験や保育士を目指す参加者2名について、本人の希望通り、一度の受験で合格させることができた。</li> <li>・自宅でも学習できるように教材を紹介、郵送で対応を行った。</li> </ul>
<p style="text-align: center;">課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者が少ないので、愛西地域（海部地区）での周知、広報活動が必要</li> <li>・参加者本人やご家族の体調不良による欠席者への学習支援の方法や働きかけ</li> <li>・支援スタッフの確保</li> </ul>

## 7 運営者の声

<p>令和3年に愛西地域の学習支援事業を受託し、今年で4年目を迎えた。</p> <p>昨年度に比べ、参加者数は減少している。参加者の中には、体調面や育児、仕事などの理由で毎回学習教室に参加できない日があり、欠席する日が多く見られた。参加者が自宅で学習できるように教材の郵送対応やリモートでの学習支援を行った。</p> <p>学習教室では、中学校に在学する参加者の受入も行っており、不登校気味で学習意欲が低下していたが、学習支援員と関わることで、少しずつ学習意欲が向上している。学校や自宅での様子も話してくれるようになり、進学についても前向きになっている。学習教室が、参加者にとって「第3の居場所」として機能している。</p> <p>令和6年度には、外国籍の参加者はなかったが、問い合わせは数件あり、外国籍の方への事業ニーズを感じている。</p> <p>少しずつ学習教室の認知が広がっているが、次年度に向けてさらに周知・広報活動を強化していきたいと考えている。</p>
---

## 参加者ピックアップコラム

(団体名) 労働者協同組合ワーカーズ・コープセンター事業団

### Aさん (10代 女性)

令和3年度に学習教室に参加し、高校進学が決まった後、学習教室を卒業しました。

しかし、その後高校を中退し、令和6年度、再度学習教室に参加してくれました。保育士になりたいとの目標があり、高卒認定試験資格取得を目指していました。保育士資格の受験のためには、実務経験を積む必要があるため、アルバイトをしながら学習教室に参加していました。アルバイトとの兼ね合いで会場に来ることが難しかったため、リモートで学習支援を行い、令和6年度の高卒認定試験では全科目合格という結果になり、学習教室を卒業しました。

### Bさん (10代 男性)

Bさんは、全日制高校に在学中ですが、体調面から通学が難しく、高卒認定資格を取得して大学進学を希望していました。

学習教室では、高卒認定試験に向けた学習を行い、また民間の塾では大学受験の勉強をしていました。

令和6年度の高卒認定試験に無事合格し、現在は大学受験に向けて勉強を頑張っています。

### Cさん (10代 女性)

Cさんは、自治体の相談窓口から学習教室につながりました。シングルマザーとして仕事をしながら、学習教室に参加しています。

参加当初は、家族に子供を預けて通っていましたが、毎回、家族の協力を得ることが難しく、リモートでの学習支援に切り替えました。

仕事や家事、育児で忙しく、学習教室を欠席することもありましたが、自習にも力を入れ、結果的に高卒認定試験では一部科目合格しました。

無理なく学習を続けられるよう、仕事や子供、家族の話聞くことを心がけています。

## 知立地域（学習支援）

### 1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズをもっているのか）

#### ア 参加の経緯

高校の先生からの紹介、国際交流協会からの紹介、日本語支援員からの紹介、支援機関からの紹介、友人、親からの紹介、居場所のスタッフからの紹介、市役所の子育て推進課からの紹介、チラシを見て

#### イ 状況、ニーズ等

- ・通信制高校の分からない授業内容を、未来塾で教えてもらいたい。
- ・高校に入学したい、その具体的方法を知りたい、その勉強をしたい。
- ・大学に入学をしたい、そのためのアドバイスをしてほしい、種類や小論文の書き方をサポートしてほしい。
- ・今まで未来塾に来て勉強をしていたが、その延長で居場所として利用したい。

### 2 参加者の感想・メッセージ

感 想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
<p>・ここに勉強に来るようになって、日本語がうまくなった、モチベーションが高まった。うれしいです。（10代男性）</p>	<p>ないです。</p>	<p>・例えあなたが、勉強がうまくできないとわかっていても、先生たちは、勉強面で助けてくれるだけでなく、もっと勉強がうまくできると、モチベーションと希望を与えてくれます。</p> <p>・僕は「勉強は嫌いな生徒で、いつも自分は遅い」と思っていたが、先生たちは、少しずつ勉強の楽しさを教え、勉強をしたいという気持ちにさせてくれました。今では難しいものでも、学ぶことが大好きになりました。</p>
<p>・みんなが勉強していて、何人かの先生がいるのから、家よりも勉強がしやすい。（10代女性）</p>	<p>・他の人とは話したことがないので、交流が増えるとよい。</p>	<p>・分からない時にすぐに聞けるので、勉強をしやすいと思います。</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>参加無料でサイフに優しく、学校の課題を終わらせられるので、ありがたい。(10代男性)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の参加者ともっと関わることがあってもよいと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加無料で気楽に来られます。</li> <li>参加自由なので、塾のように行かなければならないという義務みたいなものがないので、気が楽だと思います。</li> </ul>
--	---	--

### 3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	11名	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語の支援員(5名)</li> <li>元高校の教員(2名)</li> <li>家庭教師の経験のある理系大学院卒(1名)</li> <li>臨床心理士、元高校教諭(1名)</li> <li>コーディネーター(2名)</li> </ul>
スタッフの募集方法		<ul style="list-style-type: none"> <li>NPOの会員の知人を通じて、人材を探す。</li> <li>この事業のスタッフの知人を通じて、人材を探す。</li> </ul>
スタッフ確保のための方策		<ul style="list-style-type: none"> <li>退職された教員の人脈を頼りに、知人にあたる。</li> <li>日本語支援のスタッフの人脈を頼りに、知人にあたる。</li> </ul>

### 4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
パンフレット	<ul style="list-style-type: none"> <li>各市町の若者支援の団体、子ども・若者支援地域協議会の委員。</li> <li>親の会主催の進路説明会の参加者。</li> <li>ぷらっとほ一むのメンバーが参加する各研修会、様々な会議の参加者。</li> </ul>	パンフレットのデザインは評価される。それを見ての参加者あり。
SNS	<ul style="list-style-type: none"> <li>X(旧Twitter)・Instagramでの広報。</li> </ul>	フォロワー数: X…200名、Instagram…265名 ※見ている人数は増えている
Webサイト	<ul style="list-style-type: none"> <li>ぷらっとほ一むのWebサイトでの広報。</li> </ul>	NPOの活動の一つとして、団体に興味のある人達に周知されている。
公式LINE	<ul style="list-style-type: none"> <li>未来塾の利用者。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日程や連絡事項を、利用者に伝えやすくなった。</li> <li>利用者から欠席の連絡が入るようになった。</li> <li>スタッフと利用者の個別の連絡のやりとりができるようになった。</li> </ul>

## 5 取組の工夫

- ・学習の成果が定着するように、宿題を出している。
- ・刈谷市の図書館とぷらっとほ一むの事務所の2か所で学習支援を行っているので、二つの手段で情報共有をしている。
  - ① 2か月に一回、2時間かけて、スタッフが集まり、利用者の学習取組や支援や生活の現状について、情報共有、方針の話し合いをしている。
  - ② 学習支援をした内容を、記録に残して、他のスタッフにも共有できるようにしている。また個人名は伏せて、LINEで学習内容を共有している。

## 6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<ul style="list-style-type: none"><li>・昨年度、未来塾を利用し、高校に合格した利用者の一部が、高校の勉強のために未来塾を利用している。継続的に来られる場所になっている。</li><li>・昨年度、高校に合格した利用者で、今年度の来所がほとんどない利用者も元気に高校生活を送っていると情報が入る。</li><li>・中学3年の年齢の利用者で、ひきこもっていて、中学に籍がなかった利用者を、未来塾での勉強をとおして支援し、進学への意欲をもたせた。適応指導協室、未来塾の利用を勧め、中学校に在籍を認めてもらった。</li></ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・高認受験の希望者の利用はない。勉強が得意な者は、最初のみ利用で、未来塾でアドバイスはするが、その後の利用はない。勉強が苦手な者は、定時制高校への進学を考えるのが現実的と考える。</li><li>・今年度は高校受験を考える希望者は1名だが、最初のみで、継続的な利用はない。</li><li>・利用者の参加状況が安定せず、日によって、全く来所のない時や、多いときで最大7名になり、来所が安定しない。</li></ul>

## 7 運営者の声

- ・指導者の先生たちが、教材を作ったり、指導内容を共有したりして、利用者の学力、進度に合わせて、丁寧指導をしている。現在は最低賃金の報償費を支払っているが、一般的な塾の講師と比べると、かなり低額。世間の物価上昇、賃上げに向けて、未来塾の費用も多くなっていくといいと考える。経営的には、団体の自己資金の活用が年々増える傾向にある。



## 名古屋地域（日本語学習支援）

### 1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズをもっているのか）

#### ア 参加の経緯

友人、学校からの紹介

#### イ 状況、ニーズ等

- ・簡単な日常会話には支障がないが、読み書きや学習言語としての日本語を活用することに不安や抵抗を抱えている10代の参加。高校に通いながら本事業に参加しているケースもある。

### 2 参加者の感想・メッセージ

感想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
特になし		

### 3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	12名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生、大学院生（7名）</li> <li>・元教員（3名）</li> <li>・法人スタッフ（2名）</li> </ul>
スタッフの募集方法	・スタッフによる知人・後輩等の紹介	
スタッフ確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフ同士のコミュニケーション（現在のスタッフが続けられる仕組みづくり）</li> <li>・大学等への広報</li> <li>・大学の実習等での受け入れ</li> </ul>	

### 4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
チラシ	・公共機関、図書館	他団体等とつながりのない参加者のきっかけ
地域協議会・研修等	・若者支援団体等	各団体での実践を経由した参加者の紹介等
インターネット	・県サイト、団体サイトでのチラシ公開	他団体等とつながりのない参加者のきっかけ

### 5 日本語学習支援の内容について

<ul style="list-style-type: none"> <li>・N5～N2レベルのテキストを揃え参加者の状況に応じて活用するほか、小学校レベルの漢字や簡単な文章など、日本語話者で読み書きの支援を必要とするニーズにも対応できる体制</li> <li>・外国にルーツをもつスタッフによる日常生活等の相談・雑談等にも対応</li> </ul>
--

## 6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<ul style="list-style-type: none"><li>・日本語能力試験と高認レベルの学習支援を行き来させた対応</li><li>・外国にルーツをもつスタッフ等による外国語対応や、相談への対応</li></ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・ニーズの掘り起こし、本事業で対応可能な範囲の明確化・充実化</li><li>・タブレット端末・オンライン教材等の活用</li><li>・チラシや、情報提供についての工夫</li></ul>

## 7 運営者の声

国際交流協会などと連携・情報共有しながら、ニーズに合った学習支援を紹介したり、併用しながら利用したりできるよう促していきたい。今後は地域の日本語教室に対して、本事業を紹介するアプローチも必要であると考えている。

### 参加者ピックアップコラム

（団体名） NPO法人あいち・子どもNPOセンター

#### Dさん（10代 男性）

小学校高学年で来日し、日本の高校に在籍しているが、国語や地理歴史の授業についていくことが言語面で難しい状況。日本語能力試験の受験経験もないことから、テキストを使いながら熟語・文章読解などを中心に学習。

## 豊橋地域（日本語学習支援）

### 1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズをもっているのか）

#### ア 参加の経緯

- ・インターネット経由
- ・口コミ
- ・市役所からの紹介

#### イ 状況、ニーズ等

- ・継続的に参加している利用者の多くは成人。
- ・既に働いているが、日本語がほとんど分からないという利用者がいる。
- ・小学生の利用者は基本的に受け入れていない。諸事情により例外的に受け入れた小学生もいたが、開所時間の都合上、利用が難しいようで本人都合で中止している。

### 2 参加者の感想・メッセージ

感 想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
日本語教室の先生が親切で、丁寧に教えてくれる。 (20代)	ベトナム語が分かる先生がいたら助かります。	みなさん、もっと日本語が上手になりたかったらこちらで頑張って一緒に勉強しましょう。
楽しんでいます。 (40代)	私には合っているので特になし。	これから始めたい人へ。よい先生たちがいます。
日本語教室に参加してから、仕事がうまくスムーズにできました。日本人の友だちや会社の同僚と、親しく話すことができました。 (30代)	なし	仕事や生活で日本語に困っているならこちらへ。

### 3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	6名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習支援経験者（3名）</li> <li>・通訳兼相談員（1名）</li> <li>・新規学習支援員（2名）</li> </ul>
スタッフの募集方法	・現在スタッフは募集していない。	
スタッフ確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の相談機関「ココエール」から紹介していただいた。</li> <li>・当法人のサポートステーション経由。</li> </ul>	

#### 4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
通訳に依頼	・南米人のロコミネットワークにつながる	特になし
チラシ等	・市や県の会議の際の関係団体	市の日本語学校から紹介があった。
市役所訪問	・学校教育課、多文化共生課等	市役所からの紹介があった。

#### 5 日本語学習支援の内容について

生活していくための日本語が必要なのか、JLPT（日本語能力試験）のような資格が必要なのかによって、最初の教え方を分けて対応するようにした。前者の場合はコミュニケーションを多くすることで挨拶などの基本的な言葉をストックしていくことが重要になり、後者の場合は文法などを学び、動詞や名詞を入れ替えて文章をつくり、読解ができるようにするという方式をとる。

英語を話せるスタッフが在籍しており、オンラインでスペイン語とポルトガル語が話せるスタッフに協力していただいている。

#### 6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例年と比較した場合、年齢・地域・習熟度などの点で利用者が多様化した。特に継続して学習を続けている成人の利用者が増えた。</li> <li>・利用者の紹介により、さらに利用者が増えるという循環ができた。</li> <li>・従来の利用者はある程度の初歩的な日本語ができていたが、今年度は最初歩から学習したいという方の利用があった。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当団体では火・金曜日は通常の学習支援（高卒認定試験の学習が主）、木曜日は日本語学習支援という分け方をしているが、利用者ごとに来所できる曜日が異なるので実際には誰がどの曜日に来て構わないことになっている。しかし、特定の曜日に大勢の利用者が来所すると複数人のスタッフの声が重なってしまい、利用者は学習に集中できなくなる。従来はそれでも何とかこなしていたが、見直さなければならない。</li> <li>・小学生（特に低学年）と保護者が同時に日本語の支援を望む相談が何回かあるが、小学生の受け入れは難しいため断っている。他の支援団体を紹介することもあるが、小学生と保護者を同時に受け入れることができる団体は多くない。</li> </ul>

## 7 運営者の声

例年と同様であるが、日本語学習者の進捗状況が人によって大きくことなるので、一度に複数人を見ることは難しい。特に生きていくために必要な最低限の日本語を学習する方と、J L P Tのような資格を取得したい学習者は区別して対応しなければならない。例年の利用者は『日本語での日常会話は困らないが、家庭で日本語を使わないために徐々に学業に遅れが生じている南米にルーツがある外国人生徒』が多数を占めていたため、日本語学習と学校の学習を織り交ぜた支援を行っていた。今年度は初歩からの日本語学習や、アジア地域からの学習支援者を受け入れることができた。去年以前は利用者のほとんどが南米にルーツがある方々だったので、大きく変化した。特に、ベトナムの方に関しては、他県と同様に県内在住者は多いものの学習者がいなかったのがこれまでの課題であった。継続して来所していただいているので、嬉しく思っている。

### 参加者ピックアップコラム

(団体名) NPO法人 いまから

#### Sさん (40歳代 女性)

Sさんはブラジルから日本に来られて9年ほど経ちますが、日本語をほとんど話すことができません。出産、子育てに追われ、さらには病気になってしまった時期もあり、日本語を学ぶ機会がなかなかありませんでした。旦那さんが日本語話者ですから実生活でとても困るということは少ないようです。子供が小学校に入ったことで、日本語とポルトガル語の両方を話せるようになったようです。そこでSさんは「自分の子供と日本語でもコミュニケーションがとれるようになれば嬉しい。子供が日本語で何を言っているのか理解できるようになりたい」と思ったようです。働きながら日本語を学ぶというのは体力的にも大変かもしれませんが、初歩からの学習を頑張っています。これまでは多少日本語を話すことができる人の日本語力強化が主だったので、初歩から教えるという経験はスタッフの中でもあまり蓄積されていませんでした。スタッフ一同もSさんから学んでいることがあります。

## 豊田地域（日本語学習支援）

### 1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズをもっているのか）

#### ア 参加の経緯

- ・高校の先生に紹介された。
- ・受講生で勉強している友人に誘われた。
- ・相談していた福祉関係の職員に紹介してもらった。

#### イ 状況、ニーズ等

- ・成績を上げて、高校や大学に進学したい。
- ・言葉の問題でどうしても苦手な科目を克服し、中学や高校の成績を上げたい。
- ・就職したい職種があるので、そのために大学で学びたい。
- ・学校の勉強についていきたい。

### 2 参加者の感想・メッセージ

感 想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
苦手な問題が前より解けるようになった。 (10代)	特になし	面白い話や冗談を挟んで教えてもらえるので、楽しく覚えられて大満足。
テストの点数と人とのコミュニケーションが増えた。 (10代)	特になし	友だちがどんどん増える。
第一希望の高校に進学できた。 (10代)	特になし	家にいると勉強に集中できないが、ここならできる。

### 3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	7名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員OB（4名）</li> <li>・大学生（3名）</li> </ul>
スタッフの募集方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口コミ</li> <li>・未来塾受講生OB</li> <li>・教員OBへの呼びかけ</li> </ul>	
スタッフ確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップなどの学生。</li> <li>・ボランティア会議で説明し参加者に紹介してもらう。</li> </ul>	

#### 4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
関係施設への紹介依頼	・国際交流協会	日本語が上達した対象者を紹介してもらえる
チラシ	・教育委員会 ・RePPO（リッポ：豊田市こども・若者総合相談センター）	特になし
HP	・一般	特になし

#### 5 日本語学習支援の内容について

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「日本語を話せるようにする取組」を行っている交際交流協会が同じ館内にあるため、受講生は「会話はできるが日本語力不足のため学校の勉強で苦勞している」ことが参加条件になっている。※ 日本語を一から指導するにはマンパワーが足りない。</li> <li>・小中学校や高校で勤務経験のある教員ばかりなので、マンツーマンで理解しやすいよう指導している。</li> <li>・タブレットはいつでも使用できるよう準備してある。今年度は、漢字の苦手な参加者が書き順を学ぶためにフリーソフトをダウンロードして使用した。大学生スタッフが、社会や理科などで必要な教材資料をダウンロードするなどでも活用している。</li> <li>・学校の宿題や高卒認定試験問題集を元にした学習が中心なので、タブレットの利用頻度は少ない。</li> <li>・オンラインでの指導希望者については、今年度はない。</li> </ul>
---

#### 6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高卒認定に1名合格した。</li> <li>・教えあい、学びあいが受講生の間で自然とできている。特に、母語が英語の受講生は、自信をもって教えている。</li> <li>・高校進学した利用者（現在も利用中）が、討論会の学校代表候補になった。</li> <li>・講師の努力もあり、和気あいあいとした雰囲気の学習会場になっている。</li> <li>・受講生が口コミで友だちを誘ってくるようになり、参加者が増えた。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じような年齢、環境の受講生が多いので、居心地のよい場所になっている。反面、勉強せずにいつまでも雑談をする、あるいは、目標を達成してもなかなか未来塾から卒業していかない受講生もいる。</li> <li>・大学入試試験に必要な学力レベルや進学後の費用などについて、正確な資料を講師が入手することが難しい（特に小中学校教員OBの講師）。</li> <li>・高校や大学への進学、高卒認定合格が目標になっている。本人のことを考えると、将来の生活設計に意識を向けさせられたらと思うが、手段が分からない。</li> </ul>

## 7 運営者の声

- ・受講生が増えてきたため、これまでのようにマンツーマンで指導が難しい場合がある。特にテスト期間や受験時期は受講生の出席希望を聞きながら、講師の増減などシフトを工夫している。
- ・参加者が増えるにつれ、参加者同士の教えあいの場面が増えてきた。特に言葉の意味が理解できない場合などは、母語が同じ参加者が通訳や意識で理解を深める工夫をするなどできている。

### 参加者ピックアップコラム

(団体名) 豊田市青少年センター

#### Eさん (26歳 女性)

将来的な就職を考え、大学に進学したいと希望して参加し、高卒認定に今年合格した。しかし、本人に大学進学に関する知識が少なく、レベルにあった大学選択や進学後の学費保証がないまま、理想だけが空回りしている。



## 春日井地域（日本語学習支援）

### 1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズをもっているのか）

#### ア 参加の経緯

- ・学校の先生からの紹介
- ・相談窓口からの紹介

#### イ 状況、ニーズ等

- ・就職のため、日本語能力試験を受けたい。
- ・日本語を勉強したい。

### 2 参加者の感想・メッセージ

感 想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
日本語能力試験の話が聞けてよかった。（10代）	曜日や時間の変更	特になし

### 3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	6名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語教師（1名）</li> <li>・社会人（5名）</li> </ul>
スタッフの募集方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サポステからの紹介</li> <li>・近隣の大学英へのチラシ配布</li> </ul>	
スタッフ確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サポステへの広報、周知、チラシの配布</li> <li>・近隣の大学や地域の団体への呼びかけ</li> </ul>	

### 4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
チラシ配布	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村の相談窓口</li> <li>・保健所の相談窓口</li> <li>・春日井地域協議会の参加団体</li> <li>・高齢者介護居宅支援事業所</li> <li>・春日井若者サポートステーション</li> <li>・スクールソーシャルワーカー</li> <li>・社会福祉協議会</li> <li>・ハローワーク</li> <li>・子ども食堂</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チラシ配布と合わせて、事業説明を行った。相談窓口から、対象者へチラシを配布いただき、相談につながったケースがあった。</li> </ul>
SNS	<ul style="list-style-type: none"> <li>・X（旧 Twitter）での情報発信</li> </ul>	特になし

## 5 日本語学習支援の内容について

- ・「みんなの日本語シリーズ」を使用して、日本語学習の支援を行った。
- ・参加者に合わせた日本語学習の情報提供を行った。
- ・タブレットやパソコンの翻訳アプリを活用した。

## 6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<p><b>【支援スタッフ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者に地域での日本語学習支援の情報を提供することができた。</li> <li>・日本語支援の進め方を確認することができた。</li> </ul> <p><b>【運営者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語教師資格をもつ支援スタッフが、引き続き学習支援に参加している。</li> <li>・自治体相談窓口からの問い合わせや相談が増加した。</li> <li>・SSWの方々に学習教室を見学していただき、教室の概要や具体的な支援事例について説明する機会をもつことができた。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語教室のさらなる周知活動が必要。</li> <li>・問い合わせから学習支援参加までのアプローチ方法。</li> <li>・地域の日本語教室との連携。</li> </ul>

## 7 運営者の声

令和6年度の参加者は令和5年度と比べて減少している。学校の先生や自治体の相談窓口を通じて、学習教室につながったケースがあった。全日制高校に在学する参加者は、就職に向けて日本語能力試験の受験を希望していたが、毎回の参加が難しい状況だった。そのため、地域の日本語教室に関する情報提供も行った。

また、学習支援への参加には至らなかったものの、問い合わせや相談が複数寄せられた。学習支援への参加につなげるためのアプローチの工夫や、学習教室の環境づくりが今後の課題だと感じた。

少しずつ日本語教室の認知は広がっているものの、次年度に向けてさらなる周知・広報活動を強化していきたいと考えている。

## 蒲郡地域（日本語学習支援）

### 1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズをもっているのか）

#### ア 参加の経緯

- ・紹介（利用者、父親、母親、市役所の国際課・学校教育課、中学校、友人）

#### イ 状況、ニーズ等

- ・学齢超過の年齢で来日し、日本での高校進学を希望する参加者が増えた。（現地で中学校3年間を終えた、終えていないに関わらず、日本語習得と日本の学校に慣れるために、居住地区の中学校入学を希望していた。これまでの本人の経歴や日本語能力から、1名は入学でき、もう1名はできなかった。幸い、母国で日本の中学校にあたる3年間の成績証明書を取得しており、高校受験資格が得られそうなので試験に向けて学習をしている。）
- ・来日して間もない若者が、職を得るために日本語学習に参加している。
- ・日本語が不十分な中学生が上達のために、日本語学習に参加している。
- ・外国にルーツのあるヤングケアラーで、安定して学習できない環境にある参加者への対応を市役所と連携して行っている。支援がスムーズにでき、連携の重要性を改めて実感している。

### 2 参加者の感想・メッセージ

感 想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
この学習では、日本語の理解の仕方を教えてもらいました。私にとってとても助けになりました。難しく困ってしまう、ということもなく、日本人を理解できるようになりました。（10代）	ここの先生は、生徒が分からないことで困っていると、助けてくれるので素晴らしいです。先生がより良く働けるようになることを望んでいます。そうすれば、将来、生徒も自分の意見をしっかりもてるようになります。	私はここでの学習をお勧めします。それはいろいろなことが簡単になり、心の底から頑張ろう、と思えるようになるからです。日本人とのコミュニケーションに困難を抱えている生徒を助けてくれます。この学習は、私の知識と語彙をこれまで以上に広げてくれるのに役立っています。
日本語が分からない時に、英語で説明してくれるので、理解が進んだ。 高校進学の相談、Web登録を手伝ってくれた。（10代）	特になし	日本語の勉強がしたい人は教えてもらえる。

### 3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	3名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塾講師経験者（教員免許保有）（1名）</li> <li>・元役員（教員免許保有）（1名）</li> <li>・若者自立経験者（1名）</li> </ul>
スタッフの募集方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サポステスタッフからの紹介</li> <li>・チラシ（リーフレットを見て活動に興味をもった）</li> </ul>	
スタッフ確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・義務教育OBの知り合い</li> <li>・サポステスタッフの知り合い</li> </ul>	

### 4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
チラシ配布または訪問による説明等（来所も含む）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・蒲郡市における子ども・若者地域支援協議会関係者</li> <li>・豊川市における子ども・若者地域支援協議会関係者</li> <li>・蒲郡市内図書館</li> <li>・豊川市内図書館及び生涯学習センター</li> <li>・蒲郡市内の中学校（7校訪問）</li> </ul>	<p>各機関・団体の責任者、又は担当者レベルでの事業の周知ができた。</p> <p>参加者と進路相談等をしているうちに、関係する学校や機関と連絡を取り合い、連携して支援をするようになった。その際、各学校や機関等の方々へ本事業の周知ができた事例もあった。</p>
地域協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者未来応援協議会（豊川市、蒲郡市）2か所</li> </ul>	<p>協議会を通じた事業の周知、情報共有や担当レベルでの顔合わせができた。</p>

### 5 日本語学習支援の内容について

<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語習得が不十分な参加者と進路相談をする場合、日本語が分かる保護者に同席してもらう、英語が話せる参加者なら学習支援者が英語で対応するなど、意思疎通が円滑に行えるようにしている。</li> <li>・日本語学習の経験がない参加者には、平仮名やカタカナが学べるテキストを使ったりしながら挨拶や自己紹介から学んでもらっている。</li> <li>・タブレット端末の使用は、日本語学習者へ言葉の説明をする時、映像を見た方が分かりやすい場合などに使用している。</li> <li>・現在はスタディサプリが使えるほど、日本語能力がある参加者がいないので使用に至っていない。</li> </ul>
--

## 6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<p>○支援スタッフ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高校へ入学 3名。</li> <li>・ 学齢超過の参加者が中学校入学を希望し、居住地区の中学校に入学できた。</li> <li>・ 来日して間もない参加者2名が、日本語を習得し就職した。</li> <li>・ 外国にルーツのある中学3年生を、中学校との連携で支援した。</li> <li>・ 来日間もない参加者が高校受験に挑戦できるよう、日本語学習だけでなくWeb登録や出願など一緒に行った。</li> </ul> <p>○運営者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関係機関との連携を重ね、機関や団体等からの紹介もあり、より支援を必要とする方とつながるようになった。特に中学校とのつながりがよくなった。</li> </ul>
課題	<p>○支援スタッフ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海外から日本に来て半年後の高校進学を希望する者が増加している。海外で4年制中学を卒業する前に来日してしまったため、日本の高校受験資格の有無の確認に手間取るケースが少なくない。また、進学後の日本語での授業についていけるだけの日本語能力を備えているものは、極めて少ない状況である。今のところ、学習支援の範囲で受験対策を行っているが、そのような対応でよいものか悩んでいる。</li> <li>・ 日常会話は何とかできるし、日本語の文章も何とか読めるので、内容を理解していると思っていたが、読めても意味が分からない者が少なくない。このような者の語彙を増やす方法はないか悩んでいる。</li> </ul> <p>○運営者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外国にルーツをもつ参加者とその保護者に、高校入試の情報を伝え、進学先を決めてもらうのが容易ではない。外国にルーツをもつ保護者が自ら入試情報を得たり、理解したりすることが難しい。</li> </ul>

## 7 運営者の声

令和4年度から、愛知県教育委員会委託事業（日本語学習支援）を受託し、3年目となりました。関係機関、団体等の方々の平素からの御理解と御協力に感謝いたします。外国人居住者が増える中、日本語指導が必要な児童生徒も多く、そのような日本語能力が不十分な人が、日本語学習ができる行政サービスに、たどり着いていない現状がまだまだあるように感じます。今年度も、進学を目標に高校に入学した方、就職を目標にスキルアップしている方がいます。若者・外国人未来塾は近くで学習できる場所の一つです。多くの方にそのことを知っていただき利用してもらい、皆様の役に立てればと思っています。

## 参加者ピックアップコラム

(団体名) 青少年自立援助センター北斗寮

### Rさん (10代 男性)

フィリピンの中学校を卒業して 2022 年に来日し、アルバイトをしています。2023 年 9 月に日本語の日常会話を習得したいと来所し、日本語学習を週一のペースで始めました。2 年近く日本に住んでアルバイトもしていましたが、ひらがなと挨拶くらいしかできず、初歩からのスタートとなりました。学習中には、自分で用意したノートに覚えたい内容を書いたり、分からないことは質問するなど、積極的に学習に取り組んでいます。自宅と職場の行き来の電車の中でも、日本語の学習ノートを見て復習をしているようで、本人も「日本語が分かるようになるのが楽しい。」と言っています。熱心に勉強しているので、夜間中学や定時制高校を紹介してみましたが、あまり関心がないようでした。今後も日本語学習を続けながら、日本語能力試験などの仕事に生かせる資格の取得も視野に入れ、支援していきたいと思っています。

## 知立地域（日本語学習支援）

### 1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズをもっているのか）

#### ア 参加の経緯

- ・日本語支援の先生からの紹介（一番多い） ・既に参加している友だちや、従妹からの紹介
- ・市役所の子育て推進課から ・高校の先生から

#### イ 状況、ニーズ等

- ・母国で高校卒業、大学に行きたい。                      ・日本で高校卒業、大学に行きたい。
- ・母国で大学を卒業、大学院に行きたい。                  ・中学に籍がないが、高校行きたい。
- ・学齢超過で中学卒業を認められてないが、高校に行きたい。
- ・母国で高校中退、日本の高校に行きたい。

### 2 参加者の感想・メッセージ

感 想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
<p>This class has been very helpful in improving my Japanese language and many other things.</p> <p>Since I started attending the class, my vocabulary and writing has gently improve. It has been a really good experience learning here. (10代男性)</p> <p>&lt;この学習支援は私の日本語やその他多くのことの上達にとっても役立ちました。学習支援に通い始めてから、語彙力と文章力が徐々に向上しました。ここで学ぶのは、本当に良い経験でした。&gt;</p>	特になし	<p>I advise anybody that hasn't attending this class to start immediately because it is really helpful. There are very good teachers here that can really help you to improve your Japanese.</p> <p>&lt;この学習支援に参加したことがない人は、すぐに始めることをお勧めします。本当に役に立ちます。ここには、日本語を上達させるのに本当に役立つ、とても優秀な先生がいます。&gt;</p>
<p>先生たちが、私のレベルに合った主題を、提供できるから、時間が無駄になりません。(20代男性)</p>	<p>私にとって今の状況で続いてもよいと思っています。</p>	<p>授業が楽し、先生たちが優しいし、もらった主題も試験の質問と一致しているので、お勧めです。</p>

<p>This class has helped me learn more about Japanese, and everyone is kind. (10代女性)</p> <p>&lt;この学習支援は日本語について学ぶのに役立ちました、そして、みんな親切です。&gt;</p>	<p>non</p> <p>&lt;ありません&gt;</p>	<p>Everyone is kind and very welcoming.</p> <p>&lt;みんな優しくとても迎え入れてくれます。&gt;</p>
---	---------------------------------	--

### 3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	11名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語の支援員（5名）</li> <li>・元高校の教員（2名）</li> <li>・家庭教師の経験のある理系大学院卒（1名）</li> <li>・臨床心理士、元高校教諭（1名）</li> <li>・コーディネーター（2名）</li> </ul>
スタッフの募集方法		<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPOの会員の知人を通じて、人材を探す。</li> <li>・この事業のスタッフの知人を通じて、人材を探す</li> </ul>
スタッフ確保のための方策		<ul style="list-style-type: none"> <li>・退職された教員の人脈を頼りに、知人にあたる</li> <li>・日本語支援のスタッフの人脈を頼りに、知人にあたる。</li> </ul>

### 4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
パンフレット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各市町の若者支援の団体、子ども・若者支援地域協議会の委員。</li> <li>・親の会主催の進路説明会の参加者。</li> <li>・ぷらっとほ一むのメンバーが参加する各研修会、様々な会議の参加者。</li> </ul>	パンフレットのデザインは評価される。それを見ての参加者あり。
SNS	<ul style="list-style-type: none"> <li>・X（旧 Twitter）・Instagramでの広報。</li> </ul>	<p>フォロワー数：</p> <p>X…200名、Instagram…265名</p> <p>※見ている人数は増えている</p>
Webサイト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ぷらっとほ一むのWebサイトでの広報。</li> </ul>	NPOの活動の一つとして、団体に興味のある人達に周知されている。
公式ライン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未来塾の利用者。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日程や連絡事項を、利用者に伝えやすくなった。</li> <li>・利用者から欠席の連絡が入るようになった。</li> <li>・スタッフと利用者の個別の連絡のやりとりができるようになった。</li> </ul>



## 5 日本語学習支援の内容について

- ・タブレット端末は、翻訳やインターネットを活用して調べものをする際に活用する。スタディサプリアは使用していない。
- ・日本語能力検定試験（JLPT）の問題を学習し、N2～N5までの試験合格を目指す。
- ・最近はNPO多言語多読の読み物を使い、易しい日本語をたくさん、読んでいる。
- ・単語カードなどを使い、遊びを取り入れて、数人でゲーム化して実践している。

## 6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<ul style="list-style-type: none"><li>・大学に合格した利用者が2名、そのうち1名はN2に合格をしている。</li><li>・不登校である中学生が、従姉と来所して日本語の勉強をしている。</li><li>・来日して間もない外国人が3名来所、日本語の勉強をして、高校入学を目指している。</li><li>・学齢超過で、地元の中学に入れてもらえてなかった利用者を、地域の国際交流協会のボランティアの先生と協力して、夜間中学に入学できるように支援している。</li></ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・来所する外国人の数が増えて来て、今のスタッフの人員では、対応しきれなくなっている。</li><li>・週に2回の日本語支援では、学習の定着が難しい。</li><li>・外国人の来所は、気まぐれ的なところもあり、来所の人数の把握が難しい。</li><li>・外国ルーツをもつ利用者の目的が、不登校の中学生の日本語の勉強、大学進学等であったりする。未来塾の本来の目的（高校中退、中学卒業後進路未決定者の支援）に対して、どこまで支援の枠を広げるのか、疑問に思うスタッフもいる。</li></ul>

## 7 運営者の声

- ・英語が堪能な支援員が支援員9名中5名いる。その先生たちが、地域の外国人支援に課題を感じ、未来塾では、本当に熱心に指導をしてくださっているので、感謝している。今年度は「夜間中学への入学許可」や、学齢超過の外国人への地域での取組など、行政の側の課題を痛感した。未来塾の予算の枠では支援はしきれないので、団体の資金を使って支援をしているが、未来塾への県からの予算、拡大をお願いしたい。

#### 4 2024（令和6）年度「若者未来応援協議会」の実施状況

##### (1) 合同協議会について

###### 【合同協議会】

回	月日	会場	協議内容
1	令和6年8月5日 (月)	愛知県 三の丸庁舎	<b>【報告】</b> (1) 令和5年度「若者・外国人未来応援事業」の実施概要及び成果と課題について (2) 令和6年度「若者・外国人未来応援事業」の現状について <b>【協議】</b> 「若者・外国人未来応援事業」における課題について (1) 「若者・外国人未来応援事業」と「夜間中学」等のつながり・効果的な情報共有について (2) 委託団体への情報提供について
情報交換会	令和6年12月26日 (木)	オンライン 配信拠点： 愛知県庁本庁舎	<b>【事例発表】</b> ・支援において工夫していること、学習支援・相談の中で困った事例など（特に、「支援員間の情報共有について」） <b>【情報提供】</b> ・令和7年度愛知県公立高等学校入学者選抜について
2	令和7年2月3日 (月)	愛知県 三の丸庁舎	<b>【報告】</b> 令和6年度「若者・外国人未来応援事業」の実施状況 (1) 9地域全体の状況 (2) 令和6年度若者未来応援協議会 情報交換会から各地域の状況 <b>【協議】</b> (1) 「若者・外国人未来応援事業」における課題・学習支援利用者が必要とする「支援」にどう対応していくのか (2) 令和7年度「若者・外国人未来応援事業」

##### (2) 地域協議会について

###### 【名古屋地域協議会】

回	月日	会場	協議内容
1	令和6年9月5日 (木)	愛知県図書館	<b>【報告】</b> (1) 令和5年度「若者・外国人未来応援事業」実施概要 (2) 「若者・外国人未来応援事業」の実施概要及び現在の課題について <b>【協議】</b> (1) 名古屋地域における「若者・外国人未来応援事業」の課題について
2	令和7年2月13日 (木)	愛知県生涯学習 推進センター	<b>【議題】</b> (1) 令和6年度「若者・外国人未来応援事業」実施状況（愛知県） (2) 名古屋地域「若者・外国人未来応援事業」の実施状況と課題 (3) 次年度の予定

【豊橋地域協議会】

回	月日	会場	協議内容
1	令和6年5月8日 (水)	豊橋市役所	<b>【報告】</b> (1) 「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について (2) 豊橋地域における「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について <b>【協議】</b>
2	令和7年2月12日 (水)	豊橋市役所	<b>【報告】</b> (1) 「若者・外国人未来応援事業」の愛知県全体の実施状況について (2) 豊橋地域における「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について <b>【質疑応答】</b>

※ 豊橋地域協議会は「豊橋市子ども・若者支援地域協議会」の一部に位置付けて開催している。

【豊田地域協議会】

回	月日	会場	協議内容
1	令和6年7月18日 (木)	豊田市 青少年センター	<b>【報告】</b> (1) 「若者・外国人未来応援事業」実施概要 (2) 「若者・外国人未来応援事業」豊田地域活動状況 <b>【情報交換】</b>
2	令和7年1月24日 (金)	豊田市 青少年センター	<b>【報告①】</b> ・令和6年度 若者・外国人未来応援事業 実施状況 ・令和6年度 若者・外国人未来応援事業 成果と課題 (まとめ) ・令和7年度 「若者・外国人未来応援事業」について <b>【報告②】</b> ・令和6年度 「若者・外国人未来応援事業」豊田地域成果報告 <b>【情報交換】</b>

【半田地域協議会】

回	月日	会場	協議内容
1	令和6年7月10日 (水)	クラシティ	<p><b>【報告】</b> 令和5年度事業報告 新規人数動向、延べ人数、高卒認定申請・受験・結果、最近の傾向、キャリア教育について</p> <p><b>【協議】</b> タブレットの利用促進検討、講座としてキャリア教育を行う際のタブレット追加臨時貸し出し、SSWや社会福祉協議会との連携、その後のつながり、不登校本人は何を求めているのか</p>
2	令和6年12月4日 (水)	クラシティ	<p><b>【報告】</b> 令和6年度事業報告 令和6年度の活動報告（キャリア教育、高卒認定受験者のその後）、学習支援の利用目的の変化、外国籍の利用者についてのサポート（日本語講師について）</p> <p><b>【議題】</b> 支援員の教育や補充・安定等、学校への訪問、今後の地域支援連携について</p>

【春日井地域協議会】

回	月日	会場	協議内容
1	令和6年8月29日 (木)	春日井市役所	<p><b>【報告】</b> (1) 令和5年度「若者・外国人未来応援事業」実施概要、実施状況、他地域の取組について (2) 春日井地域における「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について</p> <p><b>【協議】</b> (1) 春日井地域における「若者・外国人未来応援事業」の連携、課題について 「若者・外国人未来応援事業」における関係機関等の業務内容について</p>
2	令和7年2月17日 (月)	春日井市役所	<p><b>【報告】</b> (1) 令和6年度「若者・外国人未来応援事業」、実施状況、他地域の取組、成果について (2) 春日井地域における「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について</p> <p><b>【協議】</b> (1) 若者・外国人未来応援事業における今年度の成果、課題及び次年度の計画について（広報手段、手続き、対象となる方への情報提供について）</p>

【一宮地域協議会】

回	月日	会場	協議内容
1	令和6年9月9日 (月)	一宮市 社会福祉協議会	<b>【報告】</b> (1) 令和5年度「若者・外国人未来応援事業」実施概要 (2) 「若者・外国人未来応援事業」の実施概要及び現在の課題について <b>【協議】</b> (1) 一宮地域における「若者・外国人未来応援事業」の課題について
2	令和7年2月10日 (月)	一宮市 社会福祉協議会	<b>【議題】</b> (1) 令和6年度「若者・外国人未来応援事業」実施状況（愛知県） (2) 一宮地域「若者・外国人未来応援事業」の実施状況と課題 (3) 次年度の予定

【蒲郡地域協議会】

回	月日	会場	協議内容
1	令和6年9月18日 (水)	豊川市役所	(1) 「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について (2) 蒲郡地域（豊川市）における「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について <b>【協議】</b>
2	令和6年11月25日 (月)	蒲郡市役所	(1) 「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について (2) 蒲郡地域（蒲郡市）における「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について <b>【協議】</b>

※ 蒲郡地域協議会は「豊川市子ども・若者支援地域協議会」、「蒲郡市子ども・若者支援ネットワーク協議会」の一部に位置付けて開催している。

【愛西地域協議会】

回	月日	会場	協議内容
1	令和6年8月8日 (木)	愛西市文化会館	<b>【報告】</b> (1) 令和5年度「若者・外国人未来応援事業」実施概要、実施状況、他地域の取組について (2) 愛西地域における「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について <b>【協議】</b> (1) 愛西地域における「若者・外国人未来応援事業」の連携、課題について
2	令和7年2月20日 (木)	愛西市文化会館	<b>【報告】</b> (1) 令和6年度「若者・外国人未来応援事業」、実施状況、他地域の取組、成果について (2) 愛西地域における「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について <b>【協議】</b> (1) 若者・外国人未来応援事業における今年度の成果、課題及び次年度の計画について（広報手段、手続き、対象となる方への情報提供について）

【知立地域協議会】

回	月日	会場	協議内容
1	令和6年8月19日 (月)	刈谷市 総合文化センター	<b>【報告】</b> (1) 「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について (2) 知立地域における「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について <b>【協議】</b> (1) 各地域における義務教育以降の、生きにくさを抱えた子供若者たちの支援について、各市町の支援機関では、どのように取り組んでいるか (2) 日頃、地域や支援機関で、見聞きし対応する外国にルーツをもつ人達との関わりについて、皆さんが感じている現状と課題 (3) 「若者、外国人未来応援事業」（知立）と、どんな連携が考えられる
2	令和7年2月12日 (水)	刈谷市 社会教育センター	<b>【報告】</b> (1) 「若者・外国人未来応援事業」の令和6年度の実施状況について (2) 知立地域における「若者・外国人未来応援事業」の令和6年度の実施状況について <b>【協議】</b> (1) 地元の中学に通えない外国人の存在とその支援について、意見交換 (2) 第1回の地域協議会で話し合った内容について、意見交換

## 5 学習支援に参加された皆さんの声

学習支援参加者（日本語学習支援含む。）にとって、この事業に参加してみて、自分自身にどのような変化があったのかなど、経験の振り返りを呼びかけたところ、何人かの方が応えてくれました。

この事業を利用し、感じたことを自分の言葉で表現をしてくださいました。学習支援参加者の貴重な「生の声」として掲載させていただきます。

### 【学習支援について】 名古屋地域

この学習会では、自己都合で、30分だけとか月に1回とか、体調悪くて1年に1回しか参加できなくても、気にせず通えます。（この学習会がある限り）

卒業できるまで、気軽に通えるので、早く参加したほうがいいですよ。ラッキーチャンス。

### 【とても助かっています。学校のような雰囲気はありません。】 豊橋地域 16歳

私は中学3年間登校せず、ひとりで勉強するようなストイックさもなく、小学校6年生以来4、5年間勉強から離れていました。

今は高卒認定試験のための勉強をしていますが、先生方がとても詳しく丁寧に教えてくださるので、目指すところが明確になり、やる気が保てます。

本当に感謝しています。

### 【通えてよかった】 半田地域 29歳

ちた地域若者サポートステーションさんには高等学校卒業程度認定試験の試験勉強でお世話になっております。

現在、あと残すは英語のみとなりました。

学習面でどう始めたらいいだろうと勉強への取組方法から親身になっていただいたおかげで他教科の合格ができたと思っております。

持病があり、継続が難しい私でも急な体調不良にも考慮していただき、常日頃からあたたかいお言葉をいただいて励まされました。

過去の経験から挑戦することに恐怖を抱いておりましたが、ちた地域若者サポートステーションの支援員さんと触れ合い、勉強面だけでなく、精神面もサポートしていただけたと思っております。

いつもありがとうございます。

今後とも引き続きよろしく願いいたします。

### 【学習会に参加して1年半になります】 一宮地域

同じ時間を共有する仲間がいるので勉強をする習慣が身に付きます。会場の環境も良く、生徒さんの人数が少ないこともあり、一対一で指導してもらえます。目標に向かって前進することができます。

### 【学習教室に参加してみて】 愛西地域 10代

子供を産んでから、将来について考えるようになり、市役所に相談に行った。

それまで高卒認定試験の存在は知っていたが、向き合うことを避けていた。

当初は美容系の分野に興味があったが、本当に好きなのは子供に関わることだと気づいた。友人にも相談し、塾に通うことも検討していたところ、市役所で愛西地域の学習会を紹介された。親の後押しもあり、思い切って参加してみることにした。

学校とは違い、自分のペースで学べるだけでなく、相談にも乗ってもらえたため、楽しく続けることができた。学習教室を通じて将来について深く考えるようになり、仕事が決まり、目標も明確になり、その道を進めることができた。

学習教室に参加して、本当によかったと感じている。



## 6 事業の成果と課題

### (1) 成果

○困難を抱える若者のステップアップに貢献した。

参加者の能力等に合わせた高等学校卒業程度認定試験合格に向けた学習支援を実施することができた。

<参考>

- ・ 本事業参加者数（8か年：延べ） : 816 人
- ・ 高等学校卒業程度認定試験受験者（8か年）実人数 : 218 人
- ・ 高等学校卒業程度認定試験合格者（8か年）全科目合格者数 : 96 人  
一部科目合格者数（延べ） : 110 人
- ・ 学習支援参加者における  
高等学校卒業程度認定試験受験者数の割合（8か年） : 26.7%
- ・ 高等学校卒業程度認定試験受験者における全科目合格率（8か年） : 44.0%

地域	実受験者数割合 (対参加者数)								全科目合格者数 (対参加者数)								全科目合格者数 (対受験者数)							
	2024	2022	2022	2021	2020	2019	2018	2017	2024	2022	2022	2021	2020	2019	2018	2017	2024	2022	2022	2021	2020	2019	2018	2017
名古屋	16.7%	32.3%	28.6%	34.6%	44.4%	42.1%	71.4%	21.1%	12.5%	16.1%	14.3%	19.2%	16.7%	21.1%	21.4%	10.5%	75.0%	50.0%	50.0%	55.6%	37.5%	50.0%	30.0%	50.0%
豊橋	16.7%	12.5%	8.3%	11.8%	30.8%	41.2%	42.9%	33.3%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%	15.4%	17.6%	28.6%	16.7%	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%	50.0%	42.9%	66.7%	50.0%
豊田	16.0%	16.7%	18.2%	25.9%	20.0%	25.0%	37.5%	28.6%	12.0%	4.2%	9.1%	11.1%	6.7%	10.0%	12.5%	14.3%	75.0%	25.0%	50.0%	42.9%	33.3%	40.0%	33.3%	50.0%
半田	20.8%	30.8%	55.6%	44.4%	33.3%	100.0%	—	—	16.7%	0.0%	33.3%	11.1%	0.0%	100.0%	—	—	80.0%	0.0%	60.0%	25.0%	0.0%	100.0%	—	—
春日井	53.8%	63.6%	80.0%	58.3%	50.0%	66.7%	—	—	23.1%	27.3%	33.3%	25.0%	12.5%	0.0%	—	—	42.9%	42.9%	41.7%	42.9%	25.0%	0.0%	—	—
一宮	20.0%	23.1%	0.0%	33.3%	100.0%	—	—	—	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	—	—	—	0.0%	0.0%	—	0.0%	50.0%	—	—	—
蒲郡	12.0%	7.1%	11.5%	3.3%	16.7%	—	—	—	4.0%	0.0%	7.7%	3.3%	0.0%	—	—	—	33.3%	0.0%	66.7%	100.0%	0.0%	—	—	—
愛西	60.0%	20.0%	66.7%	66.7%	—	—	—	—	40.0%	20.0%	16.7%	66.7%	—	—	—	—	66.7%	100.0%	25.0%	100.0%	—	—	—	—
知立	0.0%	0.0%	0.0%	—	—	—	—	—	0.0%	0.0%	0.0%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	18.9%	21.1%	27.5%	26.0%	32.3%	39.3%	52.8%	25.0%	10.1%	7.8%	12.7%	11.8%	11.8%	18.0%	22.2%	12.5%	53.3%	37.1%	46.2%	45.5%	36.7%	45.8%	42.1%	50.0%
平均	26.7%								11.8%								44.0%							

※ ここでの参加者数は、各年度事業開始から第2回高等学校卒業程度認定試験日までの人数とした。

### ○切れ目のない支援実施の継続

例年課題であった事業開始時期の早期化であるが、4月から2月末（3月初頭）までと切れ目ができるだけ短くなるように実施した。

#### 【（参考）契約時期】

①2017～2019 年度	②2020 年度	③2021～2024 年度
<b>【委託事業】</b>	<b>【補助事業】</b>	<b>【補助事業】</b>
・ 国の審査を経て事業実施	・ 県のプロポーザル審査会で委託団体を選定後、契約	・ 継続地域については現委託団体と随意契約
◎ 7月契約 (継続地域の契約は H30～)	◎ 5月契約	◎ 4月契約

## ○学習支援に参加した結果、気持ちの変容が見られた

「高等学校卒業程度認定試験に（一部科目合格も含めて）合格した」という成功体験や、「小学校や中学校で分からなかったことが、分かるようになった」ことで、学ぶことの楽しさを感じたり、自分に自信が出てきたりすることから、前向きにいろいろなことに取り組もうとするような意欲の向上につながるケースが見られるようになった。その結果、次の目標を設定する、他の資格取得・社会参加へ向けて前向きな気持ちになるケースがあった。また、学習支援を受けた経験から、「同じような経験をしている人のためになりたい」という思いから、学習支援に携わる側として、参加する方も現れるなどのケースも出てきた。

## (2) 課題

### ○支援の対象者増加に伴う学習履歴・目的などの多様化への対応

一方で、高等学校卒業程度認定試験を受験することを目標としていても、今までに不登校やひきこもりを経験していると、それまでに積み重ねてきた学力が受験できるまでに追いついていない場合もある。また、学校で学習する内容を一層理解できるようにしたい、あるいは、外国人の方や、障害・様々な悩みを抱えた方が学びたいという意欲をもって利用されたりするなど、支援の対象者の学習履歴や目的意識などが事業を進めていく中で多様化している。その結果、多くのニーズを求められることになり、支援員・スタッフの対応力が求められる。また、そうしたことに対してきちんと対応できる支援員・スタッフの確保も必要である。

高等学校卒業程度認定試験で全科目合格をするなど学習面での目標を達成したとしても利用者の方にとっては、その結果はゴールではない。合格をした証などを活用し、その後の人生をどのように過ごし、社会と関わっていくのが大切になる。また、支援の対象者は、この事業に参加するまでに、他者との関わり方が得意ではなく、学校・地域などで十分経験などを積むことができず、自己有用感を高めることが難しい。そうした、新たな目標を立てるための支援の在り方についてもどのようにすべきかを考えることも「切れ目のない支援」として必要である。

また、支援員間の情報共有も必要となっている。支援の対象者に、必ず同じ支援者が対応できるとは限らない。その時に、組織的な支援体制として、お互いに不安な気持ちにならないためにも、プライベートな情報の取扱いに注意しながら情報を共有することは必要なことである。さらに、近年は、高等学校の学習指導要領の改訂などに伴う上級学校の入学者選抜方法の多様化や、県立高等学校においても2024（令和6）年度入学者選抜からはWeb出願が導入されるなど、新たな動きが多く出てきているので、高等学校・大学などの入試制度をはじめとする必要な情報の更新していく必要がある。

## ○他機関との「連携」の強化

本事業は、支援の対象者がどこにも所属しておらず、捕捉が難しいことが特徴の一つである。事業周知の広報発信もさることながら、支援を必要としている方に、事業の周知が行き届くよう様々な支援機関・団体と連携することは極めて大切なことである。また、「連携」というのは、本事業の事業周知だけでなく、対象者への支援として、「他機関へつなぐ」という意味でも必要となりつつある。学習支援のみではなく、相談・助言なども行うが、先にも挙げたとおり、支援の対象者は様々な背景を抱えている者が多い。しかも、複合的な課題解決が必要となる場合も多い。しかし、その課題解決には、本事業で全てを請け負うことは難しい。支援・協力をいただける選択肢を委託している団体の方、他機関の方がお互いにもつことが必要と言える。

右の表は、高等学校卒業程度認定試験の結果をまとめたものである。昨年度に比

		出願者数（延べ）			全科目合格者数			一部科目合格者数		
		8月	11月	合計	8月	11月	合計	8月	11月	合計
2024	愛知県	512	490	1,002	233	211	444	—	—	—
	全国	9,111	8,518	17,629	4,140	3,608	7,748	3,416	3,006	6,422
2023	愛知県	560	580	1,140	245	249	494	—	—	—
	全国	9,533	9,658	19,191	3,948	3,984	7,932	3,632	3,618	7,250

べて、出願者数は愛知県で約140人、全国で2回合わせて約1,500人受験生が減っている。高等学校卒業程度認定試験は、高等学校を卒業した者と「同等以上の学力」があるかどうかを認定する学力試験であるため、高等学校を卒業したという学歴として認められる訳ではない。そのため、高卒資格を取得したい場合は高等学校へ入学する必要がある。現在、その受け入れ先が通信制課程を有している学校になっている可能性がある。実際、右の表のように学校数や在籍生徒数（参考資料：全国私学通信制高等学校協会 第2回学校運営研究会 第2部 講演資料（1）を参考にし、学校基本調査から2024（令和6）年度のデータを本課で追加）を見ると、令和2年度から通信制高等学校の学校数は46校、生徒数は約83,000人増加しており、特に、私立の学校の増加が著しい。通信制課程に生徒が集まるようになってきた要因としては、

学校数	年度	全日制 定時制	通信制		
			公立	私立	計
1970 (S45)		4,798	67	15	82
1975 (S50)		4,946	70	18	88
1980 (S55)		5,208	72	16	88
1985 (S60)		5,453	68	18	86
1990 (H2)		5,506	67	17	84
1995 (H7)		5,501	68	25	93
2000 (H12)		5,478	69	44	113
2005 (H17)		5,418	76	99	175
2010 (H22)		5,116	72	137	209
2015 (H27)		4,939	77	160	237
2020 (R2)		4,874	78	179	257
2021 (R3)		4,856	77	183	260
2022 (R4)		4,824	78	196	274
2023 (R5)		4,791	78	211	289
2024 (R6)		4,774	79	224	303

①中学校までに不登校を経験している者の進学先として多く選ばれている、②全日制・定時制高等学校のように毎日通学するスタイルや週1日の通学するスタイルなど通学日

数や学習する内容を目的に応じて選べるなど自由な形で選択できるという点が考えられる。高等学校卒業程度認定試験は、科目合格をすることで、特に、通信制高等学校では卒業単位として認められるケースがある。通信制高等学校のニーズが高まっているとはいえ、様々な理由から高等学校に通うことはできないが、高等学校相当の学力保証が必要な方は一定数いると思われるため、広報・情報発信は様々な関係各所でも必要である。

生徒数	全日制	通信制		
	定時制	公立	私立	計
1970(S45)	4,231,542	95,848	52,900	148,748
1975(S50)	4,333,079	95,674	46,125	141,799
1980(S55)	4,621,930	87,104	37,766	124,870
1985(S60)	5,177,681	86,282	46,362	132,644
1990(H2)	5,623,336	97,271	69,715	166,986
1995(H7)	4,724,945	97,330	56,653	153,983
2000(H12)	4,165,434	107,854	74,023	181,877
2005(H17)	3,605,242	93,770	89,748	183,518
2010(H22)	3,368,693	86,843	100,695	187,538
2015(H27)	3,319,114	66,702	113,691	180,393
2020(R2)	3,092,064	55,427	151,521	206,948
2021(R3)	3,008,172	53,880	164,509	218,389
2022(R4)	2,956,900	54,621	183,646	238,267
2023(R5)	2,918,501	57,437	207,537	264,974
2024(R6)	2,906,921	60,333	229,754	290,087

多様な学びのスタイルがあることは、目標実現のための選択肢が増えることにつながる。しかし、2024（令和6）年度の学校基本調査によると、通信制課程に通学した生徒の進路未定者の割合（28.2%）が、全日制課程（4.3%）に比べて、約7倍とな

っており、課題の一つに挙げられている。通信制課程在学中に進路についてしっかり考え、次のステップに進めるように、サポートする環境が必要と言える。本事業は、「高等学校卒業程度認定試験合格に向けた無料の学習支援」が柱となっており、事業実施の年数を重ねるごとに利用者の背景・ニーズが多様化していることは先にも挙げた。2024（令和6）年度の利用者のうち高等学校に在籍しているのは70名（学習支援のみ）おり、そのうち22名が通信制課程、24名が定時制課程に通学（その他、全日制課程：15名、不明：9名）している。先に挙げた課題を解決するために、本事業が一翼を担っている面もあると考えられる。

こども家庭庁は、2023（令和5）年12月22日に「こどもの居場所づくりに関する指針」を明らかにした。こどもの居場所づくりが求められる背景には、

- ・地域のつながりの希薄化、少子化の進展などの社会構造や経済構造の変化により、こども・若者が居場所をもつことが難しくなり、「こども・若者が地域コミュニティの中で育つ」ことが困難になっている。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響からの臨時休業や、「ソーシャルディスタンス」の確保によりコミュニケーションが希薄化した。
- ・こども・若者を取り巻く環境に目を向けると、児童虐待の相談対応件数の増加や不登校、いじめ重大事態の発生件数の増加、自殺するこども・若者の数の増加など、課題が複雑かつ複合化し、こどもの権利が侵害される事態がある。

ということが挙げられている。この指針では、居場所の定義を「こども・若者が過ごす場所、時間、人との関係性全てが、こども・若者にとっての居場所になり得る。すなわ

ち多様な形態をとり得るものである。こうした多様な場がこどもの居場所<sup>8</sup>になるかどうかは、一義的には、こども・若者本人がそこを居場所と感じるかどうかによっている。その意味で、居場所とは主観的側面を含んだ概念である。」としているが、本事業で実施をしている学習支援も、多くの利用者の「居場所」としての機能を果たしている。

愛知県では、2025（令和7）年度以降に夜間中学<sup>9</sup>や中高一貫校<sup>10</sup>の開校、フレキシブルハイスクール<sup>11</sup>の開校など、新しいタイプの学校づくりを進めている。これらの学校に通学する生徒は、その背景から「居場所」の一つとしても本事業を利用する可能性が考えられる。そうした意味からもつながりを大切にすることが必要である。

生涯学習を推進する本課としても、学校教育との連携を充実させ、多種多様な目的をもつ利用者が悩みを解決し、次のステップアップへ進むことが実現できる事業となるよう各地域委託団体への支援が一層必要となる。事業の実施を委託している県内9地域の団体は、年数は各団体により異なるもののノウハウは確実に蓄積され、実績を積んでいる。そのノウハウを県全体として共有し、各地域での支援に還元することで、事業全体の質の向上を図る仕組みを構築することも必要である。

課題については、一つずつ解決を図りながら、一人でも多くの方が、今置かれている困難な状況を乗り越えて、自らの将来に希望をもつ手助けができる事業となるよう、次年度以降も検討を重ねていく。

---

<sup>8</sup> 指針の中では、具体的なものとして、子ども食堂、児童館や児童遊園などの児童福祉施設、公民館、図書館、青少年教育施設などの社会教育施設や子ども会、スポーツ少年団などの青少年団体、学校（学校図書館を含む。）、教育支援センター、放課後児童クラブ、放課後等デイサービス、公園の活用、高齢者や障害者向けの社会福祉施設、地域の社会福祉協議会、学習・生活支援事業や児童育成支援拠点事業、重層的支援体制整備事業などを挙げている。また、営利活動としての塾や習い事、SNSやオンラインゲームなどのデジタル空間、ショッピングモールなど居場所づくりを目的として行われているものではないが、結果としてこどもの居場所となっているものも挙げられている。

<sup>9</sup> 2025（令和7）年度に愛知県立豊橋工科高等学校内へ「愛知県立とよはし中学校」が開校。また、2026（令和8）年度には愛知県立豊田西高等学校内へ「愛知県立とよた中学校」、愛知県立小牧高等学校内へ「愛知県立こまき中学校」、愛知県立一宮高等学校内へ「愛知県立いちのみや中学校」が開校。

<sup>10</sup> 併設型・連携型合わせて11校導入。うち、2026（令和8）年度に併設型として愛知県立日進高等学校内に「不登校経験のある生徒の能力、可能性を引き出す学校」、連携型として愛知県立衣台高等学校に「外国にルーツのある生徒の能力、可能性を引き出す学校」として開校を予定。

<sup>11</sup> 多様な学習ニーズをもつ生徒にとって学びやすい高校として、全日制・昼間定時制・通信制の3課程を一つの学校内に置き、3課程間をフレキシブルに行き来して学べる新しいタイプの高校を2025年度に佐屋、武豊、豊野、御津あおばの4校に開設。

2024年度（令和6年度）

愛知県「若者・外国人未来応援事業」成果報告書

発行 令和7年3月

愛知県教育委員会あいちの学び推進課

名古屋市中区三の丸三丁目1番2号